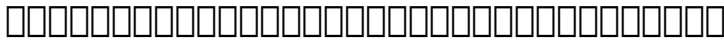


See discussions, stats, and author profiles for this publication at: <https://www.researchgate.net/publication/326211843>



Conference Paper · October 2017

CITATIONS

0

READS

285

1 author:



[Sanshiro Hosaka](#)

The Japan Open University

12 PUBLICATIONS 0 CITATIONS

SEE PROFILE

Some of the authors of this publication are also working on these related projects:



Historical Memories and Political Attitudes in Ukraine [View project](#)



Russian Hybrid-Information Warfare in Ukraine [View project](#)

目次

はじめに	3
1. アクティブ・メージャーズ.....	6
「包括措置」	6
宗教・親露組織	7
ヤヌコヴィッチ	10
議会・政党	12
経済・貿易	14
グラジェフの敗北	15
2. スルコフ・カムバック.....	16
内政チーム	16
マロフェエフの登場	17
協力者のリクルート	18
パヴロフスキーの助言.....	19
「アジ・コンサート」	20
メドヴェドチュク・プロジェクトの失敗.....	22
3. クリミア併合へ	23
形勢逆転?	23
クリミア・東部への関心.....	24
テレビへの関心	26
マロフェエフのクリミア入り.....	27
「スラヴ民族大会議」	28
「ルシン・カード」	28
「ユゴ・ヴォストーク（南東部）」、または「ノヴォロシア」	29
怯える司祭	30
フロロフの暴走?	31
スルコフの隠密外交	32
ドダバタ劇? 優雅な執筆活動.....	34
4. 占領マネジメント.....	36
人事	36
予算	38
メディア	39
神話作り	41

ケーススタディ：カザコフ「自由保守政治センター」所長.....	42
まとめ	45
政治技術と「ハイブリッド戦」	45
ロシアの受動性・即興性.....	47
ドンバス紛争の内（外）生性.....	48
参考文献	49

ロシアの「政治技術」とウクライナ問題：「スルコフ・リークス」をもとに

保坂三四郎

はじめに

次に、今回の件にウクライナがどう対処し、どんな行動を取るべきかということへのアドバイスとして、こう言っておきたい——ウクライナの人々は、自分たちの力だけで答えを導くことができるはずだ。それは間違いない。いずれにせよ、ロシアとしては介入する意図はいっさいない。たとえば、ギリシャやキプロスでの危機の最中に、われわれロシアの外務大臣が反EUを打ち出した会合に姿を現わし、観衆にアピールを始めたとしたら、ヨーロッパ諸国のパートナーたちはどう反応するだろう？ 私には容易に想像がつくね。(2014年1月28日、ロシア・EUサミットにおけるプーチン大統領発言)¹

もっとも重要なのは今日のキエフの政権とウクライナ南東部の代表の直接対話、直接に完全な対話を行い、ウクライナ南東部代表がウクライナにおける彼らの法的権利の保証を確信できることである。この点において、対話に不可欠な条件を整えるため、ウクライナ南東部代表、連邦化支持者に対し、本年5月11日に予定される住民投票の延期を要請する。(2014年5月7日、クレムリンでスイス大統領(OSCE議長)との会談後の記者会見におけるプーチン大統領発言)²

ロシアのクリミア併合やウクライナ東部での紛争以降、正規軍の戦闘に準軍事的手段・部隊や秘密工作を組み合わせた「ハイブリッド戦」、さらに政治、社会、経済、情報等のさまざまな手法を併用した「非対称戦」(あるいは「非線形戦」)に関する言説は多い。

ランド研究所は、「ハイブリッド戦 (Hybrid warfare)」を「敵対者が政治目的の達成のために同時的、順応的に通常兵器、非正規の戦術、テロ、ときに犯罪行為を混ぜて用いること」としている (Kofman et al 2017, p.2)。また、「政治戦 (political warfare)」を「他国を感化するために政治、経済、外交、情報のパワーのツールを公然および非公然の両方の方法で用いること」と定義し、「政治戦」の戦術には、対象国内の好意的な勢力の支援に向かわ

¹ “Russia-EU summit,” *Kremlin.ru*, January 28, 2014, <http://eng.kremlin.ru/transcripts/6575> 訳はフィオナ・ヒル注 72

² “Заявления для прессы и ответы на вопросы журналистов по итогам встречи с Президентом Швейцарии, действующим председателем ОБСЕ Дидье Буркхальтером,” *Kremlin.ru*, 7 мая 2014г. <http://www.kremlin.ru/events/president/transcripts/20973>

せるための心理戦、プロパガンダ、人々の扇動を含むとしている。この分類に従えば、ウクライナ東部の紛争は、政治戦（アンチマイダンのデモ）から、ハイブリッド戦（ボロダイ、ストレリコフらの武装集団の登場）を経て、2014 年の夏にはウクライナとロシアとの間の通常戦に発展していったことになる。

しかし、軍事的手法と攪乱情報などの組み合わせは、かつて「トロイの木馬」に用いられたように必ずしも目新しいものではない。また、ハイブリッド戦はソ連時代の「アクティブ・メジャーズ（Active measures）」³を現代のロシアが刷新したものとも捉えられる（Madeira 2014, Haines 2015）。

Bruusgaard（2014）は、クリミア併合が対グルジア戦争（2008 年）と比べて異なるのはロシアがさまざまな手段の組み合わせによって政治的目的を達成した有効性（efficacy）にあるという。有効に働いた理由のひとつは、「観察者が平和と紛争の状態を識別することが難しい」ことにある。「現代ロシアでは軍事、準軍事、その他の国のパワー（公然および非公然の）は曖昧である」（pp.86-87）。

この識別の難しさについて、「ハイブリッド戦をハイブリッドたらしめるのは非軍事的要素のうち情報的要素」であるとする Mahda（2016, p.104）は以下のとおり述べる。

情報戦の危険は、通常戦であれば壊滅的影響を特定できる（目に見える）兆候、侵略開始の明確なクライテリアがないこと。情報戦の特徴である情報空間の厚みや幾重もの層が行動、人材、現象、過程の評価を不明確、曖昧にする。住民は壊滅的影響にさらされていることに気づかず、結果的に社会の有する防御機構が機能しない。通常働く危険に対する感覚が働かないのだ。
(p.106)

Wilson（2014）は、ウクライナ危機はロシアの「ヴァーチャルな政治（virtual politics）」を土壌として発展した「操作・コントロール技術の輸出の試み」と評し（p.20）、ハイブリッド戦を「超ニカルで自己破滅的な政治技術の方法論の二番煎じ（bastard）」（p.192）と呼んだ。「政治技術」⁴は、メイドインロシアの病的な「地政学」や「情報戦」と並び、ウクライナへの三大輸出品のひとつとなった（p.36）。2007 年、ロシアの政治技術屋セルゲイ・マルコフは Wilson に以下のとおり語っている。

我々は政治技術を国際的にグルジアやウクライナでも使うべきだ。私はこ

³ アクティブ・メジャーズとは KGB がソ連の対外政策を支えるため行った欺瞞工作である。敵対国の政府、社会、個人の意見や意思決定に影響を与えることを最終目的とする。偽情報や捏造、友好的な非政府・非政治組織の活用、野党の共産党・左翼の利用、政治的な感化工作、さらにロシア正教の活用を含む（STRATCOM COE 2015, pp.34-35）。

⁴ 政治技術とは、選挙において特定の候補者や政党を支援するための包括的な政治操作のことである。その手法は、行政資源の利用、メディア・世論操作、ブラック PR、官製野党の創出、急進勢力（scarecrow）の支援など多岐に亘り、これらに従事する職業家や市場も存在する。Wilson, A. (2005) *Virtual politics: faking democracy in the post-Soviet world*. Yale University Press.

これらの国々が独立国とは考えていない。なによりも、我々は米国がこれらの国々でやっていることと同じことをすればいい。米国が今やっていることの10分の1の努力で、ウクライナでは親露政府が誕生するだろう。いまの我々は100分の1もやっていない。ウクライナでは国民の大部分がロシアに好意的だ。我々は手を差し伸べるだけでよいのだ。(Wilson 2014, pp.34-35)

2016年秋、クレムリンでウクライナ問題を担当する「究極のPR屋」(Wilson 2005, p.51)、スルコフ大統領補佐官のメールアカウントがウクライナの愛国的ハッカーによって乗っ取られ、1GBを超えるデータがウェブ上に公開された⁵。また、グラジェフ大統領顧問とキリル総主教をつなぐキリル・フロロフ CIS 諸国研究所ロシア正教・海外組織関係課長のメールアカウントの17GBのデータも公開された⁶。リークの大部分は「退屈な」内容だが、公開情報や他のリーク情報と突き合わせて精査すると、スルコフらによる巧みな「政治技術」が見える。本報告は対ウクライナ政策の戦略をつかさどるスルコフ、現場担当者のひとりのフロロフ、それぞれのメールボックスの内容とその他の関連する公開情報を照合する。

主に3つの論点を検討する。

第一に、ロシアによるクリミア併合の背景は、2013年11月のEU連合協定署名延期から翌年2月のヤヌコヴィッチ政権崩壊にかけての短期的な時間軸、あるいはオレンジ革命やソ連崩壊まで遡る長期的な文脈から解説されることが多いが、2013年前半の重要な経緯が抜け落ちていることが少なくない。2013年初頭にさかのぼった場合にクレムリンにウクライナ問題がどのように見えるか。

第二は、クリミア併合はプーチン自身が語るとおり、欧米が仕組んだ「クーデター」への即興的反応だったのだろうか。それとも長年に亘り周到に用意された計画だったのだろうか。一連の出来事を通じたロシアの「受動性」や「即興性」について、第一の質問の検討結果も踏まえ、先行研究の議論を掘り下げる。

第三は、2014年以降のドンバス紛争の内(外)生性である。ウクライナ政府と独立を求める分離主義政府による「内戦」、ロシアが全面的に主導する「戦争」など対立した見方がある。ドンバスの「人民共和国」はクレムリンの傀儡なのだろうか。それともモスクワの意思に必ずしも従順ではない、自立した政治アクターなのだろうか。

⁵ スルコフ・リークスについて日本語で書かれた資料は少ないが以下も参考とした。布井氏からは本研究の全般に関して貴重なアドバイスを頂いた。特に本資料の4は布井氏のご承諾のもと、同氏の研究を筆者の責任で編集していることを記す。布井図苗「ウクライナの『見えない』戦争：スルコフ・リークスに見るクレムリンの影響作戦」、2017年。

<https://onedrive.live.com/?authkey=%21AOqXzJ-2tqGtneI&cid=0E778E433F97E3CA&id=E778E433F97E3CA%21107&parId=root&o=OneUp>

⁶ 2013年以前は同研究所のウクライナ課長であり、正教専門家連盟会長、正教市民連盟モスクワ支部長などの肩書もある。フロロフは2006年にはクリミアの分離派支援のプロパガンダ活動で2年間ウクライナ入国禁止の措置を受けている。フロロフはグラジェフ大統領顧問、ロシア正教絡みのコネクションだけではなく、ロシアの情報機関のソロハ・ヴァレーリー（表向きはザトゥーリン CIS 諸国研究所所長顧問）からの指示も受けていたことが明らかとなっている。”Как русские убивали Одессу. Часть 1. Православные вербовщики,” PSB NEWS, 16 января 2017г.

<https://psb-news.org/kak-russkiye-ubyvaly-odessu-chast-1-pravoslavnye-verbovshhyky/>

1. アクティブ・メージャーズ

2011 年春、ヤヌコヴィッチは関税同盟加盟を拒み、EU 統合に舵を切った。2012 年 3 月には EU 連合協定のテキストに合意し、2013 年 11 月のヴィリニウス・サミットでの署名が予定されていた。このような中、2013 年初頭、クレムリンはアクティブ・メージャーズ「ウクライナ・ユーラシア統合プロセス誘因の包括的措置」を発動する。クレムリンはどのような公然・非公然の活動を展開し、ウクライナを EU から引き離そうとしたのかを概観する。

「包括措置」

遅くとも 2013 年初めには、プーチンはグラジエフ大統領顧問（ユーラシア統合担当）⁷にウクライナの連合協定署名阻止・関税同盟加盟のための戦略を作成するように指示し、グラジエフは「ユーラシア統合プロセスへのウクライナの取り込みに関する包括措置」（以下「包括措置」）なる計画を作成した⁸。グラジエフは、計画作成にあたりクチマ期の大統領府長官でウクライナにおける関税同盟推進者であり、プーチン大統領に個人的にも近いヴィクトル・メドヴェドチュク⁹の協力を得たとみられている。

同計画では、「EU 連合協定の署名は関税同盟加盟の道を閉ざし、ブリュッセルへの依存が急激に高まり、ロシアの将来の展望はなくなり、ウクライナ指導部は親欧米勢力にイニシアティブを渡す。ロシアは、ウクライナ現政権の崩壊を待ちつつ、『オレンジ』クーデターに備えるしかなくなる」と述べ、ウクライナの対ロシア依存を高め、関税同盟を支持する社会・政治勢力を結集するため、影響力のある親露ネットワークを至急構築しなければ

⁷ セルゲイ・グラジエフは 2012 年 7 月末からユーラシア統合担当の大統領顧問。「経済学者」のグラジエフは民族主義的言説とともに「プーチンの分身」として台頭した。2003 年 12 月の議会選挙では共産党票を分割するためにクレムリン（スルコフ）はグラジエフの祖国党を支援した（Wilson 2005, p.112）。ウクライナで EU 統合の方向性がもっとも活発に議論されていた 2013 年夏にはグラジエフはウクライナ国内に張りつきロビー活動を展開し、地方にも頻繁に足を運び、「ウクライナはロシアの市場であり、EU 連合協定に署名し、EU 基準にするのは膨大な費用がかかり自殺行為に等しい」、「関税同盟に入ればロシア産ガス値引きも受けられ、ウクライナにとってのメリットははるかに大きい」などと喧伝した。Елизавета Сурначева, Александр Габуев, Сергей Сидоренко "Многоглавый орел: Кто влиял на украинскую политику Кремля," *Власть*, 3 марта 2014г. <http://kommersant.ru/doc/2416461>

⁸ 本計画の全文は 2013 年 8 月 16 日の ZN.UA が独占情報として公開。"О комплексе мер по вовлечению Украины в евразийский интеграционный процесс," ZN.UA, 16 августа 2013г. <https://zn.ua/internal/o-komplekse-mer-po-vovlecheniyu-ukrainy-v-evraziyskiy-integracionnyy-process-.html> 解説記事は以下参照。

Юлия Мостовая, Татьяна Силина, "Русский план, осмысленный и беспошадный," ZN.UA, 16 августа 2013г. <https://gazeta.zn.ua/internal/russkiy-plan-osmyslennyy-i-besposchadnyy-.html> 同記事によれば、2013 年前半モスクワは、ヤヌコヴィッチの政敵のティモシェンコ元首相が刑務所にいる限り EU 連合協定が署名されることはない和高をくくっていたが、6 月初めにメルケル独首相がティモシェンコ解放を EU 連合協定署名の絶対条件としない意向を示したという情報が飛び込み、計画作成が指示されたという。しかし、フロロフのメールボックスから分かったとおり、現実には 2013 年初めには作成されていた。

⁹ メドヴェドチュクの娘（ダリヤ）は 2004 年にサンクトペテルブルグのカザン聖堂でプーチンに洗礼を受けた。なお、メドヴェドチュクもドミトロ・タバチニクと並んで「ウクライナで最も効果的な政治フィクサー」と呼ばれる（Wilson 2005, pp.51-52）。

ならないとの認識が示される。

具体的には「ウクライナの関税同盟・統合経済空間への参加の支持者を活性化し、反対者を無力化する」ために「意思決定の中心に集中的、多面的な働きかけ」が必要とし、ターゲットはヤヌコヴィッチとその取り巻き、政権に近いオリガルヒ・エリート、政府、議会・政党、市長・州知事、メディア、産業界、学术界、南・東部の有力者、ロシア正教、親露派組織等極めて幅広く設定された。また、この働きかけによって形成されるネットワークを恒常的なものとし、政治勢力の形成へとつなげることを狙いとするが、各分野の行動計画はウクライナ人に実行させ、『モスクワの仕業』とする口実を与えない」周到な隠蔽工作を伴うものであった。

方法としては、ウクライナ指導部の関税同盟に対する否定的態度は、それまでに功を奏さなかったように、説得や説明だけでは翻すことができないとし、説得に「あらゆる圧力を併せて、政権エリートが〔関税同盟〕加盟以外に生存のすべはないと感じさせる」ことを基本とする。そうした圧力は、財界、宗教界、世論、メディア、専門家集団の他、家族や近いオリガルヒを含むヤヌコヴィッチの取り巻きから同時に行われた。

宗教・親露組織

1月27日、キリル・モスクワ総主教とのコネクションを持つ CIS 諸国研究所のキリル・フロロフは、ミハイル・ククソフ（総主教補佐）を通してキリル・モスクワ総主教に対し、2月のプーチン大統領とロシア正教会主教会議の会談において「教会と国家の社会的パートナーシップ」の深化を取り上げることが重要であると説き、共同プロジェクトのひとつとして、2013年のルーシ洗礼1025周年の活用を提案した。フロロフによれば、ヤヌコヴィッチはルーシ洗礼1025周年組織委員会で〔モスクワ総主教から〕破門されたフィラレト・キエフ総主教に発言の機会を与え、フィラレトは国家レベルの記念行事に分離派の参加を求めた、という。ロシアはこの行事のイニシアティブをウクライナから取り上げ、ポストソ連空間に分断されずに唯一残ったロシア正教会と協力してウクライナやベラルーシの世論に影響を与え、ユーラシア統合を目指すべきと提言した¹⁰。

こうしたフロロフの戦術はクレムリンの方針と軌を一にするものであった。2月初旬にはすでに、グラジェフの補佐のセルゲイ・トカチュクがメドヴェドチュクの「ウクライナの選択」¹¹との協議や「ロシア同胞の組織」のネットワーク構築に着手し、フロロフに対して

¹⁰ frolov_moskva@mail.ru, e-mail to kuksov@patriarchia.ru, “Тезисы для обсуждения (в том числе закрытого) к встрече Президента России Владимира Путина с участника Архиерейского Собора Русской Православной Церкви. Дополненный вариант”, 2013-01-27, 21:00:12 +0400.

¹¹ プーチンとも個人的に親しい、クチマ期に大統領府長官を務めたヴィクトル・メドヴェドチュクを代表とする政治運動。関税同盟、ウクライナ連邦化、二言語併用（ロシア語公用化）・二重国籍（ウクライナ国籍のほか、ロシア国籍）を掲げる。これらの4つのマニフェストをしてヤヌコヴィッチの票田を奪うに十分だとする見方がある。地域党はロシア寄りではあるが、大多数はヤヌコヴィッチと同様に関税同盟から距離を置いていたが、「ウクライナの選択」はロシア政府関係者の応援を受けながら地域党との差異を明確にし、関税同盟支持者を取り込もうとした。

ウクライナの親露コネクションの紹介を依頼した¹²。さらに、「大統領によって承認されたが、階下に降りて動かなくなった」関税同盟加盟行動計画の方針に沿うもののだとして、同計画の「1.7 宗教組織対策」と「1.8 加盟目的を共有する親露組織ネットワークの強化と拡大」の2項目の抜粋がフロロフに示された¹³。この計画こそ前述の包括措置に他ならない。

宗教組織対策は、熱心な教会信者が関税同盟の支持者あるいは反対者であることが多いとしたうえで、関税同盟支持派のロシア正教モスクワ総主教の信者を確実に取り込み、同反対派のウクライナ民族の教会（キエフ総主教、ウクライナ独立正教会等）の支持者の否定的影響を無力化するために積極的な活動の必要性が認識され、モスクワ総主教がヤヌコヴィッチ個人や世論へ与える影響も無視できないとし、ロシア正教会及び「ウクライナ国民正教同盟」（いずれもフロロフが深く関わる）のチャンネルを活用して具体的な行動計画を策定することを提言している。

また、親露組織については既存のネットワークを利用するとともに、ミーティング、会議、公共イベントを通し、2015 年の大統領選で候補者を擁立できる強力な親露派政治勢力を形成することを主要な課題として挙げた。また、このプロジェクトのコーディネータとして「スラヴ民族大会議」（のちにフロロフが担当）、最重要パートナーとしてメドヴェドチュクの「ウクライナの選択」運動の名前が挙げられた。

7 月 18 日、トカチュクはメドヴェドチュク側関係者とともにメディアがキリル総主教の訪問をポジティブに取り上げられるように準備している、モスクワ・キエフ総主教側にもお抱えのジャーナリストを通して中央テレビ局に対しても働きかけを行うようにフロロフに要請した¹⁴。この時期にグラジエフからキリル総主教、トカチュクからフロロフに送られた資料には「連合協定の署名によってウクライナは貿易、技術規制などの分野で EU 基準に従わなければいけなくなるが、社会的マイノリティの人権や差別防止に関しても EU 基準となるため性的マイノリティや関連組織の活動が認められ、将来的には同性婚も合法化される可能性がある」とある¹⁵。これは性に関する保守的価値観の番人であるモスクワ総主教派が教会を挙げて EU 統合に反対する十分すぎる理由となった。

7 月 27 日、キリル・モスクワ総主教がキエフを訪問し、ルーシ洗礼 1025 周年を記念した大規模コンサートが開催された。キエフの聖職者学校・修道院の合唱団、クバン・コサック合唱団が出演し、モスクワ総主教幹部は、1025 年前の洗礼から「ウクライナ、ロシア、ベラルーシの民族や他の民族を統合する」ロシア教会の歴史が始まる、と聴衆に呼びかけた¹⁶。この準備がいかに進められたかは、イーゴリ・ドゥルージ「人民大会議」代表（2014 年春、クリミアでストレリコフの一派に合流する）とフロロフのメールのやりとりから分

¹² serg1784@mail.ru, e-mail to frolov_moskva@mail.ru, “от С.Ткачука”, 2013-02-05, 10:42:04 +0400.

¹³ serg1784@mail.ru, e-mail to frolov_moskva@mail.ru, “от С.Ткачука”, 2013-02-05, 10:48:35 +0400. この内容は 2013 年 8 月に ZN.UA が入手した資料「ユーラシア統合プロセスへのウクライナを取り込みに関する包括措置」の同じ番号の項目と一言一句内容が合致する。

¹⁴ serg1784@mail.ru, e-mail to frolov_moskva@mail.ru, “от С.Ткачука”, 2013-07-18, 17:10:51 +0400.

¹⁵ serg1784@mail.ru, e-mail to frolov_moskva@mail.ru, “от С.Ткачука”, 2013-07-18, 17:10:51 +0400.

¹⁶ “В центре Киева прошел концерт по случаю 1025-летия Крещения Руси”, *Русская православная церковь*, 28 июля 2013 г. <http://www.patriarchia.ru/db/text/3130724.html>

かる。

6月5日、フロロフはグラジエフを始めとする関係者に個別に、ルーシ洗礼 1025 周年を記念してキリル総主教が7月26日にキエフを訪問し、フレシャティク広場のコンサートを通して若者に語りかける計画があるが、キエフ市当局が妨害しようとしているという見方を伝えた。グラジエフには「キリル総主教のコンサートで EU 統合に反対するヒステリーを起こす。自分は正教関連の世論を主導するが支援が必要、メドヴェドチュクとその全ての活動家が必要」と支援を要請した¹⁷。6月8日、キリル総主教の訪問に関連するイベントの「見積り」がドゥルージからフロロフに送付されている¹⁸。ドゥルージはこのイベントのために（おそらくは「バンデラ主義者」の扇動に対抗するなどの名目で）「キエフに選りすぐりの千人を連れて来る必要がある」とし、「ウクライナ南部の軍事・スポーツ、コサック団体」を動員することが示唆される。また、候補として最近「警察の包囲網を突破してゲイ・パレードを追い散らすためベルジャンスクとドニプロから私が動員した連中が最適」とし、キエフの市街地に近いドニエプル川の「トルハノフ島のキャンプへの収容」を提案する。費用は、テントが「50000×30」、野外の食事に「90000」、移動費に「200000」のほかに広告費が見積もられている。フロロフはこのメールに「7月25日ウクライナの EU 連合加入反対ミーティング見積り」というタイトルを付けて、グラジエフに転送した。グラジエフからのゴーサインが出たのだろう、役人的に細かい性格の補佐トカチュクはキエフに活動家を輸送するバスの数、費用の単位、どこの町からバスで連れて来るのか、現地ではだれがグループを組織するのかなどを更問いしている¹⁹。フロロフは、ドゥルージに「キエフは地元人1万人、地方から2千人を動員」に修正し、合計費用を出すように指示した²⁰。一方、Sirius1919なる者に対し、「祖国²¹が私のことを思い出してくれた」、「ツァーリ（注：プーチンのこと）が私のことを見つけて（！）、ウクライナ・EU 連合に反対する正教のミーティングを開催するように最小限の仲介者を通して指示した」と吹聴した²²。

7月27日にキエフ・ルーシ洗礼 1025 周年記念行事に参加するためキエフを訪問したプーチンはヤヌコヴィッチとの会談を15分で切り上げ²³、メドヴェドチュクの「ウクライナの選択」運動が主催するフォーラムで「ロシアとウクライナは常にひとつであった。統合に

¹⁷ frolov_moskva@mail.ru, e-mail to glaziev@bk.ru, “ПРАВОСЛАВНАЯ ИСТЕРИЯ ПРОТИВ ЕВРОИНТЕГРАЦИИ УКРАИНЫ”, 2013-06-05, 22:34:44 +0400.

¹⁸ niagara93@yandex.ru, e-mail to frolov_moskva@mail.ru, “смета”, 2013-06-08, 17:44:01 +0400.

¹⁹ serg1784@mail.ru, e-mail to frolov_moskva@mail.ru, “Re: смета 1 Митинг 25 июля против вступления Украины в Ассоциацию с ЕС”, 2013-06-08, 18:20:39 +0400.

²⁰ frolov_moskva@mail.ru, e-mail to serg1784@mail.ru, “Re: смета”, 2013-06-08, 18:17:05 +0400.

²¹ 「ロージナ」（グラジエフが過去に代表を務めた政党）のことを念頭に置いたのかもしれない。

²² frolov_moskva@mail.ru, e-mail to sirius1919@mail.ru, “Re[2]: Родина”, 2013-06-08, 21:29:37 +0400.

InformNapalm の調査によれば sirius1919 はタバチニク元ウクライナ教育大臣に近いヴィクトル・ヴォロニン元国立文書庁第一副長官であり、フロロフと FSB をつなぐ人物のひとりで見られている。”FrolovLeaks: Геббельс Патриарха, вербовка украинских генералов и крещение огнем в Сирии. Эпизод IV,” *InformNapalm*, 16 декабря 2016г. <https://informnapalm.org/31142-frolovleaks-4/>

²³ ヤヌコヴィッチは翌日セヴァストポリで開催されたロシア海軍・ウクライナ海軍記念日の式典でヤヌコヴィッチは再びプーチンと対面した。“Путин и Янукович на катере в Севастополе приветствовали военные корабли,” *НТВ*, 28 июля 2013г. <http://www.ntv.ru/novosti/635859/?fb>

こそ我々の将来がある」と述べた²⁴。また、8月17日にソチで開かれた国際サンボ大会にプーチン、メドヴェージェフ、ナザルバエフの隣に座って観戦したのはヤヌコヴィッチではなくメドヴェドチュクだった²⁵。サンボ交流は続く。メドヴェドチュクは11月下旬にサンクトペテルブルグで開催された国際サンボ大会にも参加し、合間の会談でプーチンに対し、「マイダンのウクライナ野党のヒステリーをなだめる」ことを約束した²⁶。その後明らかになったところでは、ウクライナ・関税同盟の関係見直し、ウクライナに対する融資、ガス価格値引きに加え、キエフへのユーラシア経済委員会本部の設置にまで話が及んだとされる²⁷。

ヤヌコヴィッチ

2013年初頭、元来「親露」のはずのヤヌコヴィッチはモスクワの目にどう映っていたのだろうか。

ヤヌコヴィッチがロシア指導部からの関税同盟加盟への提案を無視するのは、ロシア依存に陥り、欧米からの制裁や親欧米住民の大規模な抗議運動を招くのではないかといった恐怖によって説明される。多くの場合、この恐れはヤヌコヴィッチに近く、欧米のパートナー、あるいは情報機関に相当程度依存したオリガルヒによって増幅されている。

有権者の圧倒的多数が否定的な態度をとっている状況下では²⁸、行政・犯罪リソースだけでヤヌコヴィッチを政権につなぎとめるのは極めて困難だろう。あらゆる外部の影響がヤヌコヴィッチを追い落とす。ここにおいて、親欧米勢力は思想的、組織的に権力を奪還する準備ができていたが、親露視力は組織されておらず、方向性もばらばらである。それどころか、反ヤヌコ

²⁴ "Путин променял переговоры с Януковичем на встречу с Медведевым," *Лига.net*, 27 июля 2013г. <http://news.liga.net/news/politics/882077-putin-promenyal-peregovory-s-yanukovichem-na-vstrechu-s-medvedchukom.htm>

²⁵ "Медведчук съездил к Путину и Медведеву," *Украинская правда*, 18 августа 2013г. <http://www.pravda.com.ua/rus/news/2013/08/18/6996239/>

²⁶ "Виктор Медведчук принял участие в открытии чемпионата мира по самбо по приглашению президента России Владимира Путина," *УНИАН*, 24 ноября 2013г. <https://www.unian.net/politics/855275-medvedchuk-vstretilsya-s-putinyim-i-pooobeschal-spravitsya-s-isteriey-oppozitsii-video.html>

²⁷ "О чем поговорили Путин и Медведчук?," *Gazeta.ua*, 26 ноября 2013г. <https://gazeta.ua/ru/articles/politics/o-chem-pogovorili-putin-i-medvedchuk/528232>

²⁸ 包括措置は以下のとおり分析する。「ウクライナ大統領への国民の支持の危機的な低下は、政策の結果や、ロシアとの統合に関する選挙公約の不履行に対する、ヤヌコヴィッチの核となる支持者の反応である。ヤヌコヴィッチ支持は、この2年間で3分の1にまで減った。完全に支持すると答えたのは、2010年5月は約40%であったが、現在は13%に過ぎない。不支持は2010年5月の23%から47%となった。南部・東部の自らの地盤の有権者の相対的信頼を迅速に回復するには、ロシアとの関税同盟及び統一経済圏への加盟に向けた運動を開始するだけでよく、それによって同時に心理的及び経済的な効果が得られる。」なお、下線部が「この3年間で」ではなく、「この2年間で」となっているのは包括措置自体がZN.UAが伝えた2013年6月よりもっと以前（すなわちおそくとも2013年初頭）に作成されたことを示唆する。

ヴィッチでウクライナ世論がまとまり、多くのウクライナ人はロシアがヤヌコヴィッチ政権を押し付けたと認識しているため、反露感情の増加を促している。客観的にロシアに敵対的な勢力が政権を奪取する危険が増している。この状況が続く限り、ウクライナでの「オレンジ」革命の再来の可能性は相当高い。

ヤヌコヴィッチが西側に向けて舵を切り続け、ウクライナの主権を EU に譲り渡す場合は、次回 2015 年の大統領選で我々の候補者が勝たなければならない。(以上、「包括措置」)

この時点ではまだ「我々の候補者」としてメドヴェドチュクが念頭に置かれていたのだろう。このような認識は 2013 年中盤になってもほとんど変わることはない。たとえば、7 月 18 日にトカチュクはフロロフに対し、「グラジエフがキリル総主教に渡した資料」と 27 日のフォーラムの参加者リストを送った²⁹。メールの最後には「メール受領後、ファイルはコピーし、すぐにメールボックスから削除するように」という注意書きが添えられているが、フロロフが削除を忘れて残ったファイルには「ユーラシア統合からのウクライナの最終的引き離し」という資料がある。以下はその要約である（下線部は筆者）。

ヤヌコヴィッチは「米国のアドバイザー」から協定署名によって、西側の投資を保証することで親欧米の有権者の支援も得ることができるとそそのかされているが、実際には投資の 40% 以上はロシアからである。協定署名によって自らのロシア志向の票田の半分を失う（社会調査でもヤヌコヴィッチや地域党に投票した者を含む 35～40% が関税同盟を支持）。

ロシアが代わりの候補を立てる立てないにかかわらずヤヌコヴィッチは選挙に負ける。協定が署名されてしまえば後の祭り、米国と EU は自らが推す勢力にヤヌコヴィッチ打倒の指示を出す。我々の支援がなければヤヌコヴィッチと息子の財産は没収され、永遠の侮辱とともに刑務所で人生を終えることになる。フセイン、ミロシェヴィッチ、ムバラクなど欧米のコンサルタントを信じた独裁者と同じ運命をたどる。

ウクライナがユーラシア統合から分離されれば、政権にオレンジ勢力が戻り、NATO へ向けた動きも再び活発化する。ヤヌコヴィッチはティモシェンコの件ゆえに EU は協定に署名しないと考えているかもしれないが、我々の情報によればロンドン、ブリュッセル、パリは署名について決定を行い、ベルリンも署名に傾きつつある³⁰。

²⁹ serg1784@mail.ru, e-mail to frolov_moskva@mail.ru, “от С.Ткачука”, 2013-07-18, 17:10:51 +0400.

³⁰ 2013 年 8 月 16 日の ZN.UA の記事はこの情報入手し、それを別に入手した「包括措置」と関連付けて

偉大な想像力の産物である EU 連合協定署名後のヤヌコヴィッチ・ファミリーの悲惨な末路は、両国のトップの秘密会談などの場で（あるいはヤヌコヴィッチが十分に信心深いならば教会関係者への告解で）ヤヌコヴィッチに心理的な不安を与え、その意思決定を意のままに操るのに使われた可能性もある³¹。

議会・政党

2013 年初頭の議会は、2012 年秋の選挙結果を受け、地域党が議席の 30.1%を獲得し、第一党に留まっていたが、アルセニー・ヤツニウクの「祖国」25.5%、ヴィタリー・クリチコの「ウダル」13.9%、共産党 13.2%のほか、民族主義的傾向の「自由」も 13.2%と健闘した。クレムリンの分析は以下のとおりである。

ヤヌコヴィッチが政権を失えば、地域党はたちまち崩壊する。同党のトップは、「オレンジ勢力」とも、西側のパートナーともコネクションを維持しているからすぐに勝者の群れに駆け込み、士気が低下した党員は散り散りになる。地域党は、同党から独立したあらゆる親露運動を抑えつけていたため、ヤヌコヴィッチ政権が崩壊すれば我々は頼りになる政治勢力がまったくない「焼野原」に取り残されることになる。

一般的に、ウクライナの議員は、スポンサーやリーダーに従う、柔軟な立場をとっている。ロシアとの統合路線について議員には体系的な働きかけが行われない一方、西側の影響要員（агент влияния）からは絶え間なく圧力が加えられていることから、地域党や全委員会を含む最高会議の大多数はこれまで欧州統合に賛同する発言をしてきた。方向性を変えるためには個人的に絞った活動が求められ、各議員のスポンサーとなっている財界人、ジャーナリスト、有権者組織、有力者を引き込む必要がある。（以上、「包括措置」）

地域党は意外にも公式には EU 統合路線を標榜する政党である。しかし、なかには EU 懐疑・親ロシア統合派も少数だがおり、アクティブ・メジャーズのターゲットとなった。8 月に入ると所属議員の一部が公然と異議を唱えるようになる。7 日、地域党のオレグ・ツァリョフ議員は、「法治国家センター」が作成したという「法的鑑定」をフェイスブック上に公開し、EU 連合協定はウクライナ憲法に違反するため憲法改正なしに署名は不可能であるという主張を行った³²。また、インタビューで「セヴァストポリの会談でプーチンはもし

誤った推測をしてしまったのかもしれない。

³¹ ロシアの Reflexive control の研究については Thomas (2004) を参照。

³² "Царев вытащил заключение юристов: Украине путь в Европу закрыт", *Комментарии.UA*, 7 августа 2013г. <https://comments.ua/politics/417394-tsarev-vitashchil-zaklyuchenie-yuristov.html> しかしながら、「法治国家センター」は「ウクライナの選択」代表のヴィクトル・メドヴェドチュクが評議会議長を務める組織であり、

EU 連合協定が署名される場合、ロシアは「2015 年の大統領選で」ヤヌコヴィッチを支援できないと示唆した」と述べ、「第 1 回投票で野党候補から票を奪い取る親露的候補を立てる」可能性を指摘した³³。さらに 20 日、ヴァジム・コレスニチェンコ議員は、EU 加盟を対外政策の目標に定める「国内・対外政策法」等の改正案を提出し、「国内の世論はほぼ半々に割れており、むしろ多くの場合は関税同盟への支持傾向がみられる」と述べ、世論を問わずに国の方針を決めるのは憲法が保障する国民主権の侵害であるという主張を行った³⁴。また、飛行機エンジン製造会社を経営するヴァチェスラフ・ボグスラエフ議員は EU 基準の導入によってロシアとの取引に影響が出ることに懸念を伝えた³⁵。

こうした党内の声に対しヤヌコヴィッチは、9 月 5 日に党の会合を開催し、EU 連合協定署名の方針に変更がないことを強調しつつも、関税同盟のいくつかの規定も遵守すると述べて対露政策の不安への配慮も示した。大統領に対して正面から反対する声はなく、同会合後、ツァリョフ議員は EU 統合関連法案に反対するのは「せいぜい 3～5 名」に過ぎないと述べた³⁶。その後、EU 連合協定署名の前提となる刑法や関税に関する法改正が議会で賛成多数で可決された³⁷。

なお、スルコフ・リークスからは 2013 年中盤のウクライナ内政の舞台裏の動きを間接的に知ることができる。2012 年から「ザポロージェ州の影の実力者」（注：エヴゲーニ・アニシム）に仕え、地域党の側で、野党や敵対するビジネス集団に対するモニタリング活動を取り仕切っていた政治技術屋のパーヴェル・ブロイドは、ザポロージェの権力者間の抗争や「キエフの対外政策ベクトルが親露から欧州大西洋へ変化したこと」に伴い、ザポロージェ州の親露集団の活動抑制を指示された。これに対しブロイドは「自分の信念に反する」として指示を拒み、2013 年 6 月には辞意を伝えたが、アニシムの要請で 9 月まで引き延ばされ、結局ブロイドは 10 月に逃げるようにウクライナを出国した（その後 2014 年 7 月には仲介者のブリュソフ・レスリング協会第一副会長を通してスルコフの協力者となる）³⁸。

2013 年中盤にはザポロージェ州の元締めアニシムに対し、EU 統合に反対する親露派の活

「法的鑑定」を作成したと報道されたザドロージニー所長はすでに 5 年以上同組織とは協力関係にないとして関与を否定した。"Выводы по ЕС Цареву писал сам Медведчук без Задорожного," *Коментарии.UA*, 8 августа 2013г. <https://comments.ua/politics/417762-vivodi-es-tsarevu-pisal-medvedchuk.html>

³³ "«Регионал» пугает Президента конкурентом от Путина," *Коментарии.UA*, 6 августа 2013г.

<https://comments.ua/politics/417186-regional-pugaet-prezidenta-konkurentom.html>

³⁴ "Колесниченко решил покончить с евроинтеграцией одним ударом," *Коментарии.UA*, 20 августа 2013г.

<https://comments.ua/politics/420107-kolesnichenko-reshil-pokonchit.html>

³⁵ "Ефремов признал, что в ПР есть оппозиция к Президенту," *Коментарии.UA*, 2 сентября 2013г.

<https://comments.ua/politics/422392-efremov-priznal-pr-est-oppozitsiya.html>

³⁶ Ирина Касьянова, "Янукович настраивал регионалов на Европу 2004-м годом и словами об исключении," *Вести*, 5 сентября 2013г.

<http://vesti-ukr.com/politika/15709-janukovich-nastraival-regionalov-na-evropu-2004-m-godom-i-slovami-ob-iskljuchenii>

³⁷ なお 11 月下旬のユーロマイダン以降、地域党内にはマイダンを抑えるため EU 連合協定の早期署名を望む声もあったが、ヤヌコヴィッチは党内の声に耳を傾けず、意思決定をファミリーに限定した (Dragneva&Wolczuk 2015, p.96)。

³⁸ brusovg@mail.ru, e-mail to prm_surkova@gov.ru, "Fwd: Ориентировка", 2014-07-09, 9:07:27 UTC. 原文は本報告の末尾に引用。

動を抑制するように指示が出されていた。アニシムに指示を出せるのはヤヌコヴィッチに近い「ファミリー」しかいない。他の東部の州も多かれ少なかれ似たような状況だったのだろうと推測される。

2013年5月末、ウクライナはウクライナ政府内でも親露的として知られるアザロフ首相³⁹がユーラシア経済委員会との覚書に署名し、オブザーバー資格を得た。キエフがEUとロシアの間で再び揺れ動いていたかのように見えた。しかし、この時期、親露派が相対的に強いザポロージェにEU統合反対派を抑える指示が出されていた。この覚書が署名された日にヤヌコヴィッチ大統領はバローゾ欧州委員会委員長に電話し、EU連合協定に署名する意向は変わらないと説明した（Dragneva&Wolczuk 2015, p.79）。ウクライナ側はこの覚書を極めて冷やかに見ていたのだろう。

経済・貿易

ウクライナのビジネスはロシア市場と切っても切れぬ関係にある。クレムリンはウクライナのユーラシア統合という目的達成のためにいかなる戦術を用いたのだろうか。

関税同盟支持をウクライナの産業界に働きかけるため、「関税同盟業者」連盟（注：関税同盟加盟のロビー活動のためにキエフに設けられた）は「ウクライナの選択」と協力して、ユーラシア経済委員会、関税同盟の市場アクセスの規制権限を持つロシアの関連省庁（動植物検疫監督庁、消費者権利保護・福祉分野監督庁、防衛発注庁、税関庁、産業貿易省、経済発展省、ロシア鉄道、ユーラシア経済委員会担当局）の関係者を招待して、さまざまなテーマの会議、円卓会議、セミナーを開催することができる。

産業界については、関税同盟加盟プロセスへの直接支持と引き換えに、ウクライナ側パートナーの関心事に妥協的決定をする用意をしておく。逆に関税同盟に反対したりあからさまにEU統合へ向けて扇動する政治勢力を支持する企業、所有者、社長に対しては制裁を行う。（以上、「包括措置」）

「アメとムチ」の「アメ」は、例えば、2013年1月30日にニコラエフで「ウクライナの選択」が主催した造船業の復興と発展をテーマとした会議である。会議にはメドヴェドチュクのほか、ロシアからヴィクトル・スパスキー・ユーラシア経済委員会統合局長らが参加し（グラジエフは天候不順でフライトが飛ばず欠席）、ニコラエフやヘルソンの造船会社の幹部が出席した⁴⁰。会議でメドヴェドチュクは「EUは政治、関税同盟は経済」と述べ、

³⁹ ユーロマイダン時に国外逃亡。2016年頃からクレムリン製「ウクライナ救国委員会」の代表を務める。
<http://comitet.su/>

⁴⁰ Анатолий Чубаченко, "Виктор Медведчук — «труба», которую Россия строит в обход Януковича,"

関税同盟に入りさえすれば造船業への発注は増えるとしてウクライナが関税同盟に加盟するメリットを強調した。

一方、「ムチ」の最初の兆候は7月中旬に現れた⁴¹。7月16日、メドヴェージェフ首相が政府決定としてウクライナ製パイプの無関税輸入の停止を発表した。これによって、「インテルパイプ」のピンチュクと「ドンバス産業連盟」のタルートが最初の打撃を受けた。ウクライナからの輸入品に対する税関検査も厳格化された。例えば、ロシア消費者権利保護・福祉分野監督庁はロシェン社製のチョコレートから有毒物質が検出されたとし、輸入を禁止した⁴²。また、ロシアに輸出される野菜や果実に対する動植物検疫監督庁の検査も強化された。いわゆる「貿易戦争」の始まりである。

さらにウクライナ雇用主連盟によれば、ロシア税関庁は7月にウクライナ企業40社をリスク管理システムに加えたが、8月にはウクライナの全輸出企業をシステムに加え、検査が強化された。連盟の試算によれば、これによって2013年後期にウクライナが受ける損失は20～25億ドルに達する。この貿易戦争がEU連合協定署名延期につながったと見るウクライナ政府関係者もいる⁴³。

グラジェフの敗北

ウクライナが政府としてEU連合協定署名の方針を決定した9月中旬にヤルタで開催されたYESフォーラム（注：Yalta European Strategy、2004年以降毎年開催）に参加したグラジェフは、「ウクライナがEU連合協定を署名すればロシアとの戦略パートナーシップ・友好協定の違反であり、ロシアはウクライナの国家としての地位を保証することができず、親露地域からモスクワに直接要請があれば介入もありうる」、「EU連合協定の署名はウクライナの政治的、社会的混乱につながり、生活水準も劇的に低下し、カオスが訪れる」と脅した。これに対し、会議に参加していたポロシェンコ元経済発展貿易大臣（当時）は、ウクライナでEU統合支持派が初めて過半数を超えたことを指摘し、グラジェフに「感謝」を表した⁴⁴。

9月13日にはスルコフの「カムバック」報道⁴⁵がフロロフのサークルでも話題となり、フロロフは知人からスルコフの「チーム」に入っているか尋ねられた⁴⁶。フロロフは、モスク

Преступности.НЕТ, 1 февраля 2013г. <https://news.pn.ru/politics/74601>

⁴¹ Юлия Мостовая, Татьяна Силина, "Русский план, осмысленный и беспощадный," ZN.UA, 16 августа 2013г. <https://gazeta.zn.ua/internal/russkiy-plan-osmyslennyy-i-besposhadnyy-.html>

⁴² "Роспотребнадзор обнаружил в шоколаде Roshen канцерогены," ZN.UA, 30 июля 2013г.

⁴³ Сурначева и др. "Многоглавый орел"

⁴⁴ Shaun Walker, "Ukraine's EU trade deal will be catastrophic, says Russia," The Guardian, 22 September 2013. <https://www.theguardian.com/world/2013/sep/22/ukraine-european-union-trade-russia>

⁴⁵ Варвара Зеленина, "Украине подобрали куратора: Владислав Сурков займется российско-украинскими отношениями в должности помощника Владимира Путина," Газета.ru, 13 сентября 2013г. https://www.gazeta.ru/politics/2013/09/13_a_5652077.shtml

⁴⁶ frolov_moskva@mail.ru, e-mail to kloginov@gmail.com, "Re: Вам придется вместе работать", 2013-09-13, 22:37:09 +0400.

ワに帰って真相について情報収集したいとしつつも、同じ日にはグラジエフから「大統領府で働く希望は変わっていないか（今回はスルコフの下で私の担当のもとで）？」と尋ねられ⁴⁷、もちろんどこまでもあなたについていきます、と返答し⁴⁸、18日にはグラジエフの秘書から履歴書の提出を依頼された⁴⁹。

2. スルコフ・カムバック

内政チーム

1990年代末から大統領府副長官として主に内政を担当し、ロシア指導部の支配的イデオロギー「主権民主主義」の主唱者、ロシア語・文化の海外輸出のためのソフトパワー的概念「ルースキー・ミール（ロシア的世界）」の政治的推進者として知られるウラジスラフ・スルコフは、2013年9月20日付で大統領補佐官という要職に復帰した⁵⁰。表向きは2008年のロシア・グルジア戦争をきっかけに独立を宣言したアブハジアや南オセチア（ロシアは両国を承認したが一般的には「非承認国家」として知られる）の社会経済問題の担当とされたが、就任前より11月の「東方パートナーシップ」ヴィリニウス・サミットでEU連合協定に署名する意向を示した対ウクライナ政策の立て直しが主要な任務となると見られていた⁵¹。

10月11日、プーチンは大統領府内政局長、中央管区大統領全権代表、地域発展大臣などを務め、スルコフの右腕と知られるオレグ・ゴヴォルンが大統領府 CIS 諸国アブハジア南オセチア社会経済協力局（以下「CIS 局」）の局長に充てる人事を行った⁵²。また、11月21日、同局次長にやはり内政畑を歩み、スルコフとも10年に亘る仕事の経験があるボリス・ラポポルトが任命された⁵³。ゴヴォルンはモスクワをほとんど出ないが、ラポポルトはウク

⁴⁷ glaziev@bk.ru, e-mail to frolov_moskva@mail.ru, "Re[3]: ОЧЕНЬ ВАЖНО", 2013-09-13, 09:45:23 +0400.

⁴⁸ frolov_moskva@mail.ru, e-mail to glaziev@bk.ru, "Re[4]: ОЧЕНЬ ВАЖНО", 2013-09-13, 22:24:22 +0400.

⁴⁹ prm_glaziyev@gov.ru, e-mail to frolov_moskva@mail.ru, no subject, 2013-11-18, 10:55:59 +0400. ただし、この履歴書が即座にクレムリン就職につながることはなかったようだ。

⁵⁰ "Владислав Сурков назначен помощником Президента," 20 сентября 2013 г. *Президент России*. <http://www.kremlin.ru/events/president/news/19254>

⁵¹ なお、ユーシチェンコ政権で国務長官を務めたリバチュクによれば、スルコフはかつてヤヌコヴィッチ大統領の選挙キャンペーンの資金支援を担当したという。Жанна Ульянова, "Возвращение в Эдем: Зачем Владислав Сурков вернулся в Кремль," *THE NEW TIMES*, 21 сентября 2013 г. <http://newtimes.ru/stati/others/0439a90a19bec8ddf8ff12ed9613a6c0-vozvrashteniye-v-edom.html>

⁵² "Олег Говорун назначен начальником Управления Президента по социально-экономическому сотрудничеству с государствами – участниками СНГ, Абхазией и Южной Осетией", *Президент России*, 11 октября 2013 г. <http://kremlin.ru/events/president/news/19401> なお、CIS 局は2012年7月に設置されているが、ゴヴォルンの前任は社会保障関連の省庁に30年以上務めてきた役人ユーリー・ヴォロニンである（会計院事務局長に転出）。"Воронин Юрий Викторович," *Счетная палата Российской Федерации*. <http://audit.gov.ru/structure/voronin-yuriy-viktorovich/>

⁵³ Сурначева и др. "Многоглавый орел" なお、ラポポルトはそれまでに中央管区大統領全権代表事務局モスクワ連邦検査官、地域発展省行政効率モニタリング評価部長、連邦政府「オープンガヴァメント」システム形成部長などを務めている。"Борис Яковлевич Рапопорт," *gazeta.ru*. https://www.gazeta.ru/tags/rapoport_boris_yakovlevich.shtml

ライナで何度か目撃されたという。また、別の報道によれば、スルコフはかつての自分の内政チームの登用を予定しており、そのメンバーのひとりチェスナコフ政治動向センター所長は取材に対して「ウラジスラフ・ユーリヴィッチ [スルコフ] と仕事ができるのは身に余る光栄だ」と答えている⁵⁴。

マロフェエフの登場

この時期、もうひとつの裏の重要な動きがある。2014 年 5 月以降ボロダイやストレリコフらの元雇用主としてウクライナ問題に露出するロシア正教ビジネスマンのコンスタンチン・マロフェエフとクレムリンの接触である。9 月 12 日、マロフェエフの補佐とされるアレクセイ・コモフ（「世界家族会議」国連代表）からフロロフに対し、グラジエフとマロフェエフを会わせ、「ウクライナをホモ・欧州統合から救済する」について話そう、マロフェエフには具体的な提案やリソースがある、という話が持ちかけられる⁵⁵。フロロフは、「ロステレコム」の元締めで、ファイナンスとメディアのリソースを持っている」マロフェエフをグラジエフに勧め⁵⁶、グラジエフは 16 日にモスクワのマロフェエフのオフィスを訪ねている⁵⁷。また、フロロフによれば、11 月にマロフェエフは「ウクライナにおける正教関連の用事」でスルコフを訪ねた⁵⁸。

2014 年 5 月 16 日、「ドネツク人民共和国」（以下「DPR」）「最高会議」はロシアの政治技術屋アレクサンドル・ボロダイを「首相」に選出した。ボロダイを自らの投資ファンド「マーシャル・キャピタル」のコンサルタントとして雇っていたマロフェエフはインタビューで自らの関与を否定しつつも、ボロダイは「危機における仕事の仕方をよく知っている。[2012 年に投資詐欺の疑いで]家宅捜索に入られたときもマーシャルの利益を代弁した」と評価した⁵⁹。「安全インターネット協会」なる組織の代表も務めるマロフェエフは「市民社会」のサクラとしてネット検閲の法制化を推進した過去があること、投資詐欺等の弱みも握られていることから、大統領府がこのマロフェエフのリソースを利用したのだと見られていた⁶⁰。

⁵⁴ Жанна Ульянова, "Возвращение в Эдем: Зачем Владислав Сурков вернулся в Кремль," *THE NEW TIMES*, 21 сентября 2013г. <http://newtimes.ru/stati/others/0439a90a19bec8ddf8ff12ed9613a6c0-vozvrashteniye-v-edem.html>

⁵⁵ alexey.y.komov@gmail.com, e-mail to frolov_moskva@mail.ru, "Встреча Глазьева с Малофеевым по Украине", 2013-09-12, 10:41:38 +0400.

⁵⁶ frolov_moskva@mail.ru, e-mail to glaziev@bk.ru, "Re[2]: ОЧЕНЬ ВАЖНО", 2013-09-13, 00:02:36 +0400.

⁵⁷ frolov_moskva@mail.ru, e-mail to glaziev@bk.ru, "Малофеев согласен на 18. 30", 2013-09-16, 15:18:12 +0400.

⁵⁸ frolov_moskva@mail.ru, e-mail to glaziev@bk.ru, "Re[2]: для В. Суркова просимое", 2013-11-20, 19:10:08 +0400.

⁵⁹ Елизавета Серьгина, Сергей Смирнов, "Премьером Донецкой республики избран Александр Бородай, бывший консультант «Маршал капитала»," *Vedomosti.ru*, 16 мая 2014г.

<http://www.vedomosti.ru/politics/articles/2014/05/16/premerom-doneckoj-respubliki-izbran-aleksandr-borodaj>

⁶⁰ "Marshall Малофеев. Как российский рейдер захватил Юго-Восток Украины," *The Insider*, 27 мая 2014г. <http://theins.ru/politika/796> マロフェエフは 2008 年から 2010 年の国策通信会社「ロステレコム」の株買付を巡ってイヴァノフ大統領府長官（現在、「ロステレコム」会長職にもある）やその次男と関係が深いと見られていた。Роман Шлейнов, "Высокие отношения," *Vedomosti.ru*, 18 марта 2013г. http://www.vedomosti.ru/politics/articles/2013/03/18/vysokie_otnosheniya

2015年3月 ZNAK のクレムリン筋情報は、マロフェエフはスルコフ系の人脈ではないとした⁶¹。また、Kofman, et al. (2017) など最近の研究でも、マロフェエフがモスクワの意向を受けて動いているのか、マロフェエフ個人が勝手に行動しているのは不明としている。しかし、現実には、ユーロマイダンが本格化する前からスルコフ＝マロフェエフの直接的なコネクションが成立していた可能性が高い。

協力者のリクルート

2013年10月中旬、スルコフはウクライナ国籍ジャーナリストのヴィタリー・レイビン「ルースキー・レポルチョール」誌編集長⁶²を通じて、メディア、ビジネス、歴史・文化といったソフト面で親ロシア勢力拡大の糸口をつかむため協力者のリクルートに着手した。これは「ウクライナはロシアの市場」、「ガス価格の値引き」、「EU 統合は自殺行為」などの古典的、強圧的な脅し文句でウクライナに「ロシア」を押し付けようとしたグラジェフが「イメージ」の戦いで EU に負けたことを教訓としているだろう。10月17日にレイビンがスルコフに送った「ウクライナ：世論との作業。いくつかの取っ掛かり」という資料は、ウクライナにおける親ロシア世論の拡大のために、メディア・PR、ビジネス、歴史・文化分野の潜在的協力者や方針についてレイビンが調査した結果の報告である⁶³。潜在的協力者は、「事前に意向を探った結果あらゆる形態の協力に関心を示した者」、「協力の可能性がある者（すでにロシア関係の協力実績がある）」、「理論的には視点が共通する可能性があり、協力を試行してもよい者（面談未実施、「欧州賛同」派だが急進的ではない）」に分類され、10 数名の専門分野、活動拠点、長所（経験や実績、政治的志向、政治家やオリガルヒとのコネクションなど）が報告されている。「あらゆる形態の協力に関心を示した者」にはウクライナの日刊紙「ヴェスチ」のイーゴリ・グジヴァ社長などが名を連ねる。また、こうした潜在的協力者との面談から得た「ロシアの立場拡大に関する諸テーマ」として例えば以下のような提言がレイビンからなされている。

「親ロシア政策」はテーマとして極めてワンパターンで一部の者を除き
ぐに無視される傾向にあるため、極めて厳格に扇動・宣伝活動を行う必要が
ある

親ロシア選択の合理的テーマ（経済的損得）だけではなく、（両国の）共

⁶¹ Екатерина Винокурова, "На Старой площади видят Донецк и Луганск в составе Украины," ZNAK, 17 Марта 2015.
https://www.znak.com/2015-03-17/kak_dnr_i_lnr_prevratilis_v_boleznennuyu_problemu_dlya_kremlya_issledovaniye_znak.com

⁶² ヴィタリー・レイビンはドネツク出身のウクライナ国籍のジャーナリストだが、90年代末からモスクワとウクライナで選挙活動のライターやプレス対応にも従事している。2003年には政治ニュースサイト polit.ru の編集長、2007年から現職にある。

⁶³ leybin@expert.ru, e-mail to prm_surkova@gov.ru, "Для В.Ю. от Виталия Лейбина", 2013-10-17, 14:38:45 +0300.

通運命におけるウクライナの役割など歴史・イデオロギー的テーマを活用する。

ウクライナの民族的性格（頑固さ、誇り）を考慮して少なくとも印象上は自由な選択、平等なパートナーシップと思わせ、従属という印象を与えないこと。

共同社会調査を行ってロシアの生活や科学がウクライナより成功・進歩していることを印象づける。

EU が東欧で行い EU 支持者を増やしている例を参考に、教授や学生の交換プログラムを行う（ロシア的教育に対する潜在的ニーズはある）。

ロシアに言論の自由がないという「神話」を払拭するためメディア・フォーラムや共同事業を行ってロシアが比較優位なプレスの経験を伝授する。

パヴロフスキーの助言

10 月末、スルコフはウクライナ情勢に詳しいグレブ・パヴロフスキー「効果的政策基金」総裁（1996 年のエリツィン勝利をアレンジした元祖政治技術屋）とザトゥーリン CIS 諸国研究所所長に対し個別に、ウクライナ情勢の評価とロシアがとるべき対応について助言を求めたようである⁶⁴。

ザトゥーリンはヴィリニュスの東方パートナーシップ・サミットまで残り 1 か月を切ったこと、準備状況から判断してウクライナが EU 連合協定を署名する可能性が極めて高いことを報告した⁶⁵。

パヴロフスキーは 10 月 30 日に「ウクライナ情勢について」という件名のメールをスルコフに送っているが、添付ファイルには「今後のウクライナ情勢の展開がいかに危険か」というタイトルが付けられている（原文は本報告末尾に引用）⁶⁶。その分析によれば、政敵の多いヤヌコヴィッチ大統領はクランの保身のため 2015 年の大統領選で再選を目指さざるを得ないが、「ロシアとの友好」というテーマだけでは勝てる見込みがないため、西部と中央部の票の取り込みのため「EU 統合」をスローガンに掲げることになるという。さらにパヴロフスキーは、ウクライナのエリート・オリガルヒの間に欧州統合についてコンセンサスがあること、独立以降初めて世論調査で欧州統合支持派が絶対多数（51%）となったことなどを挙げて、「ウクライナにおけるロシアの戦略的利益を犠牲にして」賭けに出るヤヌコ

⁶⁴ 2013 年 10 月 30 日の夕方のほぼ同時刻に、パヴロフスキー本人とザトゥーリンの秘書からスルコフ宛てにメールが送られている。この日の夕方を期限にして両者に報告を求めたものと思われる。

⁶⁵ galina@materik.ru, e-mail to prn_surkova@gov.ru, “справка Украина от Затулина”, 2013-10-30, 18:19:45 +0300.

⁶⁶ gleb@fep.ru, e-mail to prn_surkova@gov.ru, “Укр-тезисы-ГП”, 2013-10-30, 17:48:28 +0300.

ヴィッチはいかなる状況においてもロシアの信頼に足るパートナーとなりえないため、次回大統領選で「落選を助ける」ように助言している。

我々は、両極端な構図を作りながら、ヤヌコヴィッチが急進民族主義の反対派にとって不可避の『最後の選択肢』となるようにキャンペーンを支援する。『モスクワの圧力』という構図は、事実はそうではないのにヤヌコヴィッチを『全ウクライナの国民的リーダー』へと変貌させる。次の選挙に向けてあまりにも高いプレゼントをただであげるようなものではないか？（下線部筆者）

スルコフにも近く、2004年の大統領選でヤヌコヴィッチ陣営の陰の参謀を務めたパヴロフスキーの言葉は重い。東西分裂の構図を作りながら「親露」候補を助けるというのはロシアの政治技術の常套手段である⁶⁷。いずれにせよ、この分析を字面通りに受け取れば、モスクワはユーロマイダンの前にすでに「東部のロシア語系有権者の唯一の候補者」であるヤヌコヴィッチを見限っていたということになる。

実際に、2013年5月下旬にキエフ国際社会学研究所がウクライナ全土で実施した世論調査結果では、ヤヌコヴィッチへの支持は14.3%にとどまり、ヴィタリー・クリチコ（15.9%）の次点となっている。2010年の大統領選挙において票田であった南部、東部でヤヌコヴィッチへ投票すると答えた者は相対的には多いがそれぞれ20.6%、25.5%に留まり、代わりに「全員への反対票」が両者とも25%近くを占めた⁶⁸。大統領選ではいずれの候補者も過半数を獲得できない場合は上位2位の決選投票となるが、クリチコとの決選投票では勝ち目がないため、政治技術を駆使して自由党党首で民族主義者のチャフニボグとの一騎打ちに持ち込むシナリオも検討されていたかもしれない（Kudelia 2014a, p.26; Wilson 2014, pp.62-63）。

「アジ・コンサート」

スルコフ登場の1か月前に戻る。8月19日、フロロフは、「突破キャンペーン・ミーティング」というタイトルで、グラジエフにミーティングのアジテータ候補の親露派活動家を紹介した⁶⁹。グラジエフはフロロフに、キエフのイベントについては、メドヴェドチュクと関係が深い政治技術屋ウラジーミル・グラノフスキー⁷⁰と連絡を取るよう指示した⁷¹。フロ

⁶⁷ Виктория Панфилова, "Павловский: "Я уже десять лет так..."", *Независимая газета*, 2 июля 2004г.

http://www.ng.ru/cis/2004-07-02/4_pavlovskiy.html

⁶⁸ "Электральный намерения избирателей Украины в конце мая," *Киевский международный институт социологии*, 17 июня 2013г. <http://www.kiis.com.ua/?lang=rus&cat=reports&id=173&page=1&y=2013&m=6>

⁶⁹ frolov_moskva@mail.ru, e-mail to glaziev@bk.ru, "митинги кампания прорыв", 2013-08-18, 20:11:27 +0400.

フロロフは、メドヴェドチュクには内緒にしてくれと述べ、やや距離を置いている。

⁷⁰ グラノフスキーはウクライナの政治技術屋であり、2004年の大統領選ではモスクワから派遣されたパヴロフスキーらとヤヌコヴィッチ陣営を応援したが、「ウクライナを三つの等級に分けてはならない。西部は1等級、中部は2等級、東部は3等級」という地域間の心理的葛藤を助長するプロパガンダを考案したとして知られる。"25 лет донбасского сепаратизма. Часть вторая", *Реальная газета*, 24 марта 2016г.

<http://realgazeta.com.ua/25-let-donbasskogo-separatizma-chast-vtoraya/>

フロロフは、グラノフスキーに自己紹介メールを送り、「グラジエフの指示でミーティングとコンサート（カラマゾフの反ウクライナ・EU 連合「ヴォルナー」）をコーディネートしている」と連絡し、具体的な計画の規模が決まり次第現場の実行者を連絡するとし、各イベントが「最大限の効果、規模、メディア性」を上げるように助言を要請した⁷²。

9月に入ると、グラジエフはフロロフに「ウクライナ全土のアジ・コンサート」に関する費用見積りを提出するように要請している⁷³。これを受けてフロロフは、ウクライナのロックグループ「カラマゾフの兄弟」のリーダーのオレグ・カラマゾフにアイデアが承認されたから至急見積りを提出するように伝えた⁷⁴。一方、このコンサートのフィナーレ直前まで、「正教」や「ユーロソドム」（同性婚批判）をスローガンとしたいフロロフ側と、「反 EU」は表には出さず、よりソフトに「ユーラシア連合支持」あるいはせいぜい「ロシア、ウクライナ、ベラルーシ——ともに聖なるルーシ」に留めるべきとするグラノフスキーが反目し、フロロフは現場のドゥルージの救いを求める声を受けてグラジエフに介入を要請し⁷⁵、グラジエフは「現場の裁量に任せろ、『ユーロソドム』のスローガンは絶対に必要、グラノフスキーには相談しなくていい」と短く返事し、フロロフは現場のドゥルージにその指示を伝えた。

グラジエフ＝フロロフのラインが準備した「アジ・コンサート」は、10月19日から11月9日にウクライナの東部・中部の主要11都市を巡回する無料コンサート・ツアー「われらはひとつ！（Мы едины!）」として実行に移された。その中心テーマは「ウクライナのナチス解放70周年」と「三位一体ロシア民族（триединный русский народ）」（ロシア人とウクライナ人は同じ民族という主張）に落ち着き、「民間外交の一環として歴史的記憶と真実を守り通し、若者に愛国心と祖国に対する愛を芽生えさせること」（傍点筆者）を狙いとした。オレグ・カラマゾフが代表を務める組織「ルーシ洗礼の日」が主催し、ロシア正教会モスクワ総主教やメドヴェドチュクの「ウクライナの選択」の後援と伝えられた。当初、ハリコフのコンサートにはメドヴェドチュク本人が参加する予定だったが、22日にメドヴェドチュクは自らのサイトで、コンサートを妨害する政権側が「ウクライナの選択」が参加しないことを開催許可の条件としたことを理由に、その後の参加を控える旨表明した⁷⁶。バンド「カラマゾフの兄弟」（ウクライナ）、「スカイ」（ウクライナ）、「チャイフ」（ロシア）、「ペスニャロフ」（ベラルーシ）、「エミール・クストリツァ&ノー・スモーキング・オーケストラ」（セルビア）など人気グループが出演し、アーティストはイベントを「政治化し

⁷¹ glaziev@bk.ru, e-mail to frolov_moskva@mail.ru, “Re: Выступающие на митингах и концертах. Разъяснение. Ассоциация с ЕС будет сорвана, чего бы это ни стоило!”, 2013-08-21, 19:09:37 +0400.

⁷² frolov_moskva@mail.ru, e-mail to V.granovski@granovski.com, “по просьбе С. Глазьева”, 2013-08-22, 17:01:43 +0400.

⁷³ frolov_moskva@mail.ru, e-mail to glaziev@bk.ru, “Re[4]: ОЧЕНЬ ВАЖНО”, 2013-09-13, 22:24:22 +0400.

⁷⁴ frolov_moskva@mail.ru, e-mail to olegkaramazov@mail.ru, “СРОЧНО.”, 2013-09-13, 22:26:21 +0400.

⁷⁵ frolov_moskva@mail.ru, e-mail to glaziev@bk.ru, “Важно”, 2013-11-08, 15:04:27 +0400.

⁷⁶ Виктор Медвечук, “Славянские народы должны быть едины, как были едины в годы Великой Отечественной войны,” *Украинский выбор*, 22 октября 2013г.

<http://vybor.ua/article/Edinstvo/clavnyanskije-narody-dol-byt-ediny-kak-byli-ediny-v-gody-velikoy-otechestvennoy-voiny.html>

ないで」と呼びかけたが、会場にはウクライナとロシアの国旗がほぼ同じ数だけ揚げられ、一部のツアーではメドヴェドチュクの「ウクライナの選択」の旗も見られた。「アンチテラ」（ウクライナ）のようにメドヴェドチュクの関与を察したアーティストは参加を中止した。これに対し、「非政治」コンサートの発起人カラマゾフはコンサートを PR に利用した「ウクライナの選択」を批判し、「裁判に訴える」とまで述べた⁷⁷。その一方、主催者側だがメドヴェドチュクにも近いグラノフスキーは、政治技術屋らしいダブルスピークで、「ウクライナの選択」の関与を否定しつつも、個人的にはメドヴェドチュクに親しくその思想に共鳴すると述べ、オデッサのコンサートで司会が「ウクライナの選択」の旗を掲げた参加者に退場勧告した「事件」について謝罪した⁷⁸。

11 月 9 日のキエフの独立広場でのフィナーレには、リュベールやクバン・コサック合唱団などがロシアの人気グループが出演した。各コンサートは 4 時間におよんだが、演奏の間にはスラヴ民族の共通の歴史と記憶、正教信仰を強調するプロモーションビデオが流され、「大祖国戦争」のベテランがステージに登壇し、ウクライナ人だけでなく、ロシア人、カザフ人、ベラルーシ人などさまざまな民族が力を合わせてウクライナの土地をファシストから解放したのだ、という発言が出演アーティストからも繰り返され、スラヴ民族の一体感が演出された。また、セヴァストポリのコンサートに至ってはソ連時代の戦勝記念の歌で締めくくられた。

メドヴェドチュクとの関係を躍起になって否定したこのツアーも、結局、金の出所はクレムリンだった。しかし、ユーロマイダンが始まる 2 週間前に独立広場をロシア国旗で埋め尽くしたクレムリン製のイベントの効果はどうだったのだろうか。

メドヴェドチュク・プロジェクトの失敗

10 月 30 日にスルコフはチェスナコフ政治動向センター所長から、「われらはひとつ！」の途中経過として、上述した「ウクライナの選択」の旗を巡るイザコザからメドヴェドチュクが不参加を宣言したこと、ザポロージャではコンサートが中止となりルガンスクに開催が移ったことなどの報告を受けた⁷⁹。同様にツアー終了後の 11 月 12 日には、メディア分析の結果、コンサートに対する否定的な報道（23%）が好意的な報道（11%）を上回ったことなどが報告された⁸⁰。パヴロフスキーの助言と整合するが、クレムリンは、ヤヌコヴィッチに代わって、ロシアの利益を代弁しうるメドヴェドチュクの政治勢力の可能性に注目していた。

⁷⁷ “Кто из звезд шоу-бизнеса поддержал Медведчука, а кто нет в пропаганде ТС в Украине”, *Биржевой лидер*, 23 октября 2013г. <http://www.profi-forex.org/novosti-mira/novosti-sng/ukraine/entry1008183990.html>

⁷⁸ “Владимир Грановский: "Концерты "Мы едины" посещают все люди, независимо от цвета флагов",” *Сегодня.ua*, 25 октября 2013г.

<http://www.segodnya.ua/ukraine/Vladimir-Granovskiy-Koncerty-My-ediny-poseshchayut-vse-lyudi-nezavisimo-ot-cveta-flagov-470451.html>

⁷⁹ alalchesn@gmail.com, e-mail to prm_Surkova@gov.ru, “первый файл,” 2013-10-31, 16:30:41 +0300.

⁸⁰ alalchesn@gmail.com, e-mail to prm_Surkova@gov.ru, “Для ВЮ,” 2013-11-12, 12:01:33 +0300.

翌年2月4日、ザトゥーリン CIS 諸国研究所所長はスルコフの照会に対し、「ウクライナの選択」運動が政党となる可能性やメドヴェドチュクの人気を報告した⁸¹。「ウクライナの選択」の政党化の噂については、運動関係者や（登録先の）ウクライナ法務省も未確認とし、近い時期に行われた世論調査でのメドヴェドチュクと「ウクライナの選択」の支持率はそれぞれ0.6%、0.3%に留まることから、メドヴェドチュクが政治の大舞台に戻ることに、ましてや次の大統領選に参加できるチャンスは低いと評した。その一方で、プーチンとの近い関係を利用して親露派大統領候補の「調整役」となる可能性や、国内の政治プロセスに影響することができる本格的な親露勢力の立ち上げ（「ウクライナ国民のかかなりの部分がロシアとの統合を志向していることからそのような勢力に対する要請は存在する」）において「ウクライナの選択」の蓄積を活用する可能性が示唆されるとともに、同運動をベースにして「別個の政党プロジェクト」を作り、運動自体は「戦術などの視点から」残して置くことも否定できないとした。

しかしながら、ロシアの政治技術屋ドミトリ・アレクセエフによれば、ウクライナには「真の反EU政治勢力」がなく、共産党ですら反欧州の模倣をしているに過ぎない、という⁸²。クレムリンの政治技術が産み落としたメドヴェドチュク・プロジェクトは何ら成果を挙げることなく終わったと言ってよい。

3. クリミア併合へ

形勢逆転？

10月下旬から11月中旬にかけてヤヌコヴィッチとプーチンは少なくとも2回の秘密会談を行い、フォローアップに両国首相の会談も設けられたという。また、この間にグラジェフもキエフとモスクワを何度も行き来した（Dragneva&Wolczuk 2015, p.88）。11月9日のモスクワでのヤヌコヴィッチとプーチンの会談は「二国間の貿易経済問題」の協議とだけ伝えられ、具体的な内容は一切明らかにされず、多くの憶測を呼んだ⁸³。21日、ウクライナ政府がEU連合協定署名準備の停止を決定した。決定は「損失の生産量及びロシアとの貿易経済関係の回復」などを分析する必要性を理由のひとつに挙げたが、EU側には引き続きEU連合協定の署名に意欲を見せた⁸⁴。さらにヤヌコヴィッチはリトアニアのグリバウスカйте

⁸¹ galina@materik.ru, e-mail to Prm_surkova@gov.ru, "от Затулина," 2014-02-04, 13:09:23 +0300.

⁸² アレクセエフは12月の公開会議でメドヴェドチュク・プロジェクトは、ナタリヤ・ヴィトレンコに続く親露派政治家の獲得に向けたロシアの政治技術・情報キャンペーンであると述べた。"Российский политтехнолог рассказал, кто финансирует "Украинский выбор" Медведева,"

УНИАН, 11 декабря 2013г.

<https://www.unian.net/politics/862234-rossiyskiy-polittechnolog-rasskazal-kto-finansiruet-ukrainskiy-vyibor-medvedev-huka.html>

⁸³ 例えば、"Пресса России: тайная встреча Путина и Януковича," ВВС русская служба, 12 ноября 2013г.

http://www.bbc.com/russian/russia/2013/11/131112_rus_press

⁸⁴ "Украина приостанавливает подготовку к ассоциации с ЕС – Кабмин," УНИАН, 21 ноября 2013г.

大統領に対して「モスクワの圧力は耐え難い」と述べた。こうしたヤヌコヴィッチの戦術は、ロシアに対してはユーラシア統合にコミットせずに短期的・機能的な利益を得る一方、EUからはロシアのオファーを引き合いに出して融資など政権の延命により有利な条件を勝ち取ろうとする「ダブル・ブラフ・ゲーム (a double-bluff game)」に見えた。しかし加盟国の合議制をとる EU はこうしたヤヌコヴィッチのバーゲニングに応じる能力も意志もなかった (Dragneva&Wolczuk 2015, pp.89-91)。

ヴィリニュス・サミット前後、スルコフ周辺の動きは活発化する。11月28日夜、後述するベルゴロド会議に関する日程案が1週間前に着任したばかりのラポポルトからスルコフに送られた⁸⁵。ヤヌコヴィッチが連合協定に署名せずにサミットが閉会した29日昼、ラポポルトからスルコフに対し、クリミアとセヴァストポリ市の選挙システムに関する情報が送られている⁸⁶。クリミアの選挙を利用した何らかのシナリオが検討されていた可能性も示唆される。さらに、同じ日の午後、スルコフはグラジェフ、ラポポルトやチェスナコフの同席の下、ウクライナとの地域間協力を議題として、キエフから帰国したズラボフ駐ウクライナ大使 (報道のとおり肩書は「ウクライナ貿易経済関係発展担当大統領特別代表」となっている)、セヴァスチャノフ同大参事官と協議した⁸⁷。グラジェフは当初の参加者リストに入っていなかったが、思い出されたように付け加えられた。

クリミア・東部への関心

10月22日、スルコフは教育科学省から、モルドヴァ、アブハジア、南オセチア、ウクライナ、クリミアのそれぞれとロシアとの間の教育分野における協力の現状について報告を受けている⁸⁸。「クリミア」についての報告は、「**ロシア教育科学省とクリミア自治共和国国家機関は直接の協力は行っていない**。なお、ウクライナにおけるロシアの大学の大多数はセヴァストポリ市 (クリミア) にある」(太字強調は原文) と述べ、二国間の「ロシア・ウクライナ人道協力プログラム」の枠内での施策を列挙している。報告は、スルコフの求め

<https://www.unian.net/politics/854480-ukraina-priostanavlivaet-rabotu-po-assotsiatsii-s-es-kabmin.html>

⁸⁵ prn_rapoport@gov.ru, e-mail to prn_surkova@gov.ru; pavlov.as.one@gmail.com, “Программа пребывания в Белгородской области 11.12,” 2013-11-28, 20:51:15 +0300.

⁸⁶ prn_rapoport@gov.ru, e-mail to prn_surkova@gov.ru, “Справка,” 2013-11-29, 13:07:34 +0300. 通常、ラポポルトは「С уважением, Б.Рапопорт」でメールを締めくくることが、この本文のないメールの末尾「С уважением…」が意味深だ。ラポポルトは同ポストから退いた後のインタビューで「ウクライナからのクリミア分離もスルコフが担当していたのか？」という質問に対し、当該テーマについてはコメントできないとした上で、「自分が2013年に着任したときから、スルコフの執務室のロシア帝国地図にはクリミアがロシアの一部となっていた。住民投票以前にクリミアに複数回訪問しており、ケルチ海峡の輸送回廊の建設に関する協定の準備に関連する協議を行った。他の点のご想像にお任せする」と答えた。Дарья Мазеева, “Борис Рапопорт: «Уже в 2013-м в приемной Суркова висела карта, на которой Крым был частью России»,” MKRU, 15 декабря 2014г.

<http://www.mk.ru/politics/2014/12/15/boris-rapoport-uzhe-v-2013m-v-priemnoy-surkova-visela-karta-na-kotoroy-krym-byl-chastyu-rossii.html>

⁸⁷ prn_rapoport@gov.ru, e-mail to pavlov.as.one@gmail.com; prn_surkova@gov.ru, “ВЗАМЕН_Список участников совещания 29.11”, 2013-11-28, 22:18:16 +0300.

⁸⁸ moyakova-ma@mon.gov.ru, e-mail to prn_surkova@gov.ru, “справочная информация от МИНОБРНАУКИ России,” 2013-10-22, 17:25:54 +0300.

に応じたものと考えられるが、クリミアについての特別な関心がうかがえる。

また、10月末から11月初旬にかけてスルコフはチェスナコフ政治動向センター所長から、ウクライナの国内情勢の推移の他、ウクライナを構成する24州とクリミア自治共和国の人口や面積⁸⁹について報告を受けた。

12月5日20:00から、スルコフは「クリミアの社会経済発展の見通し」という議題の下、リハチェフ経済発展省次官、ツェマホヴィッチ同CIS諸国経済協力・統合局長も出席した会議を開催した⁹⁰。ちょうど、この日、クリミア自治共和国のコンスタンチノフがモスクワを訪問していたのは偶然だろうか⁹¹。なお、当初の参加者リストには「未確定」のコメントとともにグラジエフも載っていたが最終版には名前はない。

12月11日、スルコフはゴヴォルンCIS局長を連れて、ウクライナと隣接するベルゴラド州へ日帰り出張している。日程や参加者リスト最終版⁹²によれば、「ロシア連邦諸地域の国境地域協力の発展」を議題として、同州のプロホロフカ戦争歴史博物館会議場にグラジエフ、オブシエンコ中央管区大統領全権代表代行、ツブリスキー経済発展大臣活動支援局長のほか、ウクライナと隣接するベルゴラド州、ロストフ州、ヴォロネシ州、ブリャンスク州、クルスク州各知事を集め、会議自体は2時間程度で終了し、会議後にスルコフは第二次大戦の記念碑に献花している。「クルスクの戦い」を思い起して欧州方面への反撃を誓ったのだろうか。

会議が行われたベルゴラドはハリコフから車で数時間の距離であり、2014年春のウクライナ東部の騒擾の際に大量の「サクラ」活動家を送り出した町として知られることから、この会議で東部介入が秘密裏に協議されたのではないかと疑う見方もある⁹³。しかし、ウクライナと隣接するすべての州の代表が出席していることから、EU連合協定署名の延期を受けて、国境を挟んだ経済協力を梃子にしてウクライナの南・東部をいかにユーラシア経済統合に取り組むかについて検討したものと思われる⁹⁴。

しかし、包括措置でも「国境地域協力の枠内での協議を含め地域間協力の事業」の中身を充実させることがウクライナの関税同盟加盟を促進する推進力のひとつとして挙げられていた。元来、ウクライナとロシアの地域間の国境を越えた協力（欧州の取り組みにならって「ユーロリージョン」⁹⁵と呼ばれる）はクチマ時代に成立したが、ユーシチェンコ時代

⁸⁹ alalchesn@gmail.com, e-mail to prm_surkova@gov.ru, “для ВЮ,” 2013-11-04, 10:57:47 +0300.

⁹⁰ prm_rapoport@gov.ru, e-mail to prm_surkova@gov.ru, “Список”, 2013-12-05, 11:20:50 +0300. 最終版では議題の「クリミア」は「クリミア自治共和国」に変更されている。

⁹¹ この日、コンスタンチノフはクリミア自治共和国最高会議代表団の団長として「地方の法制：理論、経験、実践」をテーマに掲げた国際会議に参加。“Законодательство регионов – теория, опыт, практика,” Государственный совет Республики Крым, 5 декабря 2013г. http://www.crimea.gov.ru/news/05_12_13_6

⁹² prm_rapoport@gov.ru, e-mail to prm_surkova@gov.ru; prm_govoruna@gov.ru, “Материалы к командировке Белгород замена,” 2013-12-09, 11:06:48 +0300.

⁹³ 例えば、Марк Крутов, “Тайны серого кардинала,” Радио Свобода, 26 октября 2016г. <http://www.svoboda.org/a/28076558.html>

⁹⁴ 会議前日10日にはロシア商工会議所からロシア・ウクライナの各州の協力の概要や問題点に関する資料がスルコフに提出されている。

⁹⁵ オーストリアとイタリアの間のユーロリージョン「チロル」(EU加盟国間)など国境を越えた社会経済、交通、ビジネス、文化等の協力。「カルパート」のようなEU加盟国・非加盟国間、ロシア、ウクライナ、

には停滞し、ヤヌコヴィッチ政権になって再び活性化した。ロシア的地政学は、ウクライナ西部国境のユーロリージョン「カルパート」（ポーランド、ハンガリー、スロヴァキア、ルーマニア、ウクライナ）がウクライナによる EU・NATO 加盟の橋頭堡になると警戒するが、これを逆手にとればロストフ州とルガンスク州から結成され、その後ドネツク州やヴォロネジ州も順次加盟したユーロリージョン「ドンバス」（2010 年）の協力が進めば、ウクライナは「加盟せずともユーラシア連合の一部となる」のである。同じことは、ブリャンスク州やチェルニゴフ州などの「ドニエプル」（2003 年）、ベルゴラド州とハリコフ州の「スロボジャンシチナ」（2003 年）、クルスク州とスーミィ州の「ヤロスラヴナ」（2007 年）にも当てはまる。後述する 2014 年 2 月にマロフエエフが支援してクレムリンに持ち込まれたとされる地政学的な計画でも、「ロシアは、EU から見て合法的な法的手段であるユーロリージョンを利用して国境地域及び国境間協力に関する条約締結を勝ち取り、その後、有権者の親露の好感が強いウクライナの諸地域と直接的な国家条約関係を確立しなければならない」とし、「ドンバス」などの既成のユーロリージョンの政治的利用価値が提言されている。

テレビへの関心

12 月 18 日、チェスナコフがウクライナのモニタリング（日報）のなかでユーロマイダン開始以後のウクライナのテレビ（ニュースチャンネル）視聴率の上昇を報告すると⁹⁶、その数時間後にロシア「第 1 チャンネル」のエルンスト社長から、「ウクライナのテレビ空間」という報告がスルコフに送られた⁹⁷。ウクライナの 4 大メディアグループを所有するオリガルヒ（ヴィクトル・ピンチュク、ドミトリ・フィルタシュ、イーゴリ・コロモイスキー、リナタ・アフメトフ）、国内シェアや財務状況、各グループの保有するチャンネルの特長や視聴者層が報告されている。

また、26 日にラポポルトはスルコフに、このうちのひとり StarLightMedia グループのピンチュクとその妻エレナ（第 2 代ウクライナ大統領クチャマの娘。メディアグループの監視委員長）と「16 時」にアポイントが取れたことを報告している⁹⁸。翌 27 日朝、ラポポルトは「16 時」の車両ナンバー（BMW、Lexus ジープ）をスルコフ秘書に連絡したことから⁹⁹、このアポは実現したとみてよい。なお、ラポポルトはこの前日にキエフに日帰り出張して

ベラルーシの隣接州などの非 EU 加盟国間の事例もある。2011 年にユーラシア連合の構想を発表したロシアにとって、ユーロリージョンが国境を越えた統合の橋渡しを担った経験が参考となるという論文がある。Бредихин А. В. Роль еврорегионов в наднациональной интеграции (на примере еврорегиона «Донбасс»)// Журнал «Россия и современный мир». 2013. № 3 (8). С. 90--101

⁹⁶ alalchesn@gmail.com, e-mail to prm_surkova@gov.ru, boris.ra@icloud.com, “мониторинг для ВЮ,” 2013-12-18, 07:43:11 +0300.

⁹⁷ first@ltv.ru, e-mail to prm_surkova@gov.ru, no subject, 2013-12-18, 14:08:06 +0300.

⁹⁸ rapoport_b@gov.ru, e-mail to prm_surkova@gov.ru, “Визит на 16” 2013-12-26, 20:16:37 +0300.

⁹⁹ rapoport_b@gov.ru, e-mail to prm_surkova@gov.ru, “Машины на проезд к 16” 2013-12-27, 09:06:39 +0300.

いるが、用件はこのアポイントの取り付けだったかもしれない¹⁰⁰。

なお、こうした合間の 12 月 24 日、フロロフはクレムリンのラポポルトを訪ね、自らの実績や今後取り組むべきテーマ、スラヴ民族大会議を招集することなどをアピールした。11 月中旬から CIS 局では空席が生じていたので¹⁰¹、就職の面接だったのだろう。フロロフは翌日、面接結果をグラジエフに報告し、口添えを依頼している¹⁰²。面接後のメールでフロロフはラポポルトにウクライナのパートナー、プロジェクト実績、分析レポートの例を示すとともに、2013 年の実績と 2014 年の計画、経歴書などを送った¹⁰³。2013 年の実績のなかでは、モスクワ総主教の非公式な支援のもとでウクライナに正教系親露運動を形成することに成功したこと、ユーロマイダンとの闘争においてアガファンゲル・オデッサ府主教の支援を得てキエフやオデッサでいくつもの街頭行動に成功したことを述べている。しかしフロロフの CIS 局採用は見送られたようだ。「キチガイ」的な性格がクレムリンの役人には不適格と判断されたのかしれない。結局、CIS 局のウクライナの政治担当としては 12 月 19 日にスルコフがモスクワ国際関係大学の討論会でリクルートしたアブハジア出身の若手エリート、イナル・アルジンバが採用された¹⁰⁴。

マロフェエフのクリミア入り

1 月 7 日、フロロフはグラジエフにロシア正教のクリスマス祝いのメールで、キリル総主教の食卓に愛国的バイカーで知られる「ヒルルグ」とマロフェエフを招待したことを報告し、二人を 18 日の「スラヴ民族大会議」に参加させるためモスクワからのチャーター便の座席確保を要請している。また、マロフェエフが正教会の聖地、ギリシャのアトス山から聖遺物をモスクワに運んできたことに触れている¹⁰⁵。

クリミア自治共和国のルスタム・テミルガリエフ第一副首相は、2014 年 1 月 13 日に友人のドミトリ・サブリン（ロシア政治家、ウクライナ生まれ、慈善活動でマリウポリ名誉市民）から電話で打診を受け、1 月末にサブリンとマロフェエフらを表向きは宗教上の訪問（正教会の聖遺物の巡回）として受け入れた¹⁰⁶。数か月後にウクライナ東部で一躍有名になる

¹⁰⁰ このラポポルトの出張が分かるのは、スルコフからイヴァノフ大統領府長官に対し 12 月 25 日のラポポルトのキエフ出張の旅費支弁をレターで要請しているからである。prm_rapoport@gov.ru, e-mail to pavlov.as.one@gmail.com; paulmira@mail.ru; prm_surkova@gov.ru, “О командировке Рапопорта” 2013-12-23, 20:30:36 +0300.

¹⁰¹ mamonov_mv@gov.ru, e-mail to prm_surkova@gov.ru, no subject, 2013-11-13, 19:33:24 +0300.

¹⁰² frolov_moskva@mail.ru, e-mail to glaziev@bk.ru, “сделано в 2013 году и планах на 2014 год”, 2013-12-24, 20:34:44 +0400.

¹⁰³ frolov_moskva@mail.ru, e-mail to prm_rapoport@gov.ru, “Рапопорт”, 2013-12-25, 16:41:45 +0400.

¹⁰⁴ 2014 年 2 月 26 日付 CIS 局職員リスト参照。pavlov.as.one@gmail.com, e-mail to prm_surkova@gov.ru, “Fwd: сотрудники”, 2014-02-27, 11:34:47 +0300.

¹⁰⁵ frolov_moskva@mail.ru, e-mail to glaziev@bk.ru, “С Рождеством Христовым!”, 2013-01-07, 23:15:47 +0400.

¹⁰⁶ ルスタム・テミルガリエフ元クリミア自治共和国第一副首相（インタビュー時は在カザフスタン・タタルスタン共和国代表）がクリミア併合から 1 年後のロングインタビューで当時の経緯を語っているなお、このインタビューの 2 か月後にテミルガリエフはタタルスタン共和国の役職から解任された。“Если это имело определенную режиссуру, режиссеру нужно поставить пять с плюсом: Рустам Темиргалиев о развитии событий, приведших к референдуму в Крыму,” *Ведомости*, 16 марта 2015г.

ストレリコフも同行していた。サブリンらは、モギリョフ首相やコンスタチノフ議長に接触してキエフが混乱した場合のクリミアの対応（独立）をテーマにした話を持ち掛けようとした。親露的だったコンスタチノフは面談に応じたが、ヤヌコヴィッチに忠実で「ドネツク人の」モギリョフは面談を断った。その後スルコフがモギリョフに会いにシンフェロポリに來たが、話はうまくまとまらなかった様子だったという¹⁰⁷。

「スラヴ民族大会議」

2014 年の最初の一大行事は 1 月 18 日、ウクライナとロシアの統合の象徴であるペレヤスラフ協定（1964 年）の 360 周年を記念する「スラヴ民族大会議」の開催だった。会議はウクライナのペレヤスラフで開かれ、グラジエフ、ザトゥーリン CIS 研究所所長の他、ウクライナ、ロシア、ベラルーシの議員、学術関係者、コサック代表約 200 名が参加し、キリル総主教やアザロフ・ウクライナ首相の祝辞が届けられた。会議は「ウクライナの関税同盟・ユーラシア経済圏加入に関する国民の意思表明の構想」や「1 月 18 日をウクライナ、ベラルーシ、ロシアの統合の日とする提案」を支持して閉幕した¹⁰⁸。

会議の実質的運営は、フロロフを含む CIS 研究所が中心になって行われたが、この「スラヴ民族大会議」にはその象徴以上の役目があった。会議前、1 月 13 日にトカチュクはフロロフに、サガン（Novosti Novostei 代表）、カラマゾフ（「ルーシ洗礼の日」代表）、モスクワ総主教派の親露勢力がこの会議に参加して発言することが、「この分野の足場固めをするうえで重要」だとして念を押した¹⁰⁹。

「ルシン・カード」

11 月 20 日、グラジエフは、11 月 12 日付ラスチフカ「ポドカルパチア・ルシン民族会議」議長発プーチン大統領宛書簡をフロロフに転送し、ルシン人問題の検討を依頼した¹¹⁰。書簡は、モロトフ＝リッペントロップ協定によってチェコスロバキアから「ザカルパチア・ウクライナ共和国」としてソ連に併合されたルシンに対するウクライナ政府の人権侵害を訴え、「法的、歴史的、道徳的に善良な義務、ルシン民族およびその「カルパートから南」の領土に対する大ロシアの承継義務」を政府や研究機関で検討してほしい、というもの。とくにチェコスロバキアからソ連に引き渡されたときの経緯について非公開のアーカイブ資料の調査をロシアに依頼している。フロロフは水を得た魚のごとく、「ルシン人問題に 20

<http://www.vedomosti.ru/politics/characters/2015/03/16/esli-eto-imelo-opredelennuyu-rezhissuru---rezhissiru-nuzhno-postavit-pyat-s-plyusom>

¹⁰⁷ クリミア併合前夜のロシア、「クリミア人」、「ドネツク人」の攻防については松里（2014）が歴史的背景を含め詳説している。

¹⁰⁸ "Собор славянских народов отметил 360-летие Переяславской Рады," *REGNUM*, 20 января 2014г. <https://regnum.ru/news/polit/1756557.html>

¹⁰⁹ serg1784@mail.ru, e-mail to frolov_moskva@mail.ru, "от С.Ткачука", 2014-01-13, 18:42:20 +0400.

¹¹⁰ prm_glazyev@gov.ru, e-mail to frolov_moskva@mail.ru, no subject, 2013-11-20, 16:20:55 +0400.

年近く専門的に取り組む立場からいえば、この問題についてスルコフ、あるいはその上への資料を作る必要があると考える。この件は私が引き受ける」と答えた¹¹¹。

1月26日、フロロフはグラジェフに「ルシン・カード」のタイトルでグラジェフに「ポドカルパチア・ルーシ共和国首相」を自称するペトロ・ゲツコが、ガリツィアのウクライナ民族主義者からの保護を求め、ザカルパチアへの平和維持軍派遣を求めるロシア大統領宛て公開書簡案を発表したとする記事を転送した¹¹²。2月13日、フロロフはグラジェフに、ウジゴロドのドミトリー・シドル（ルシン人分離主義者）と連絡をとり、3月9日の国際会議「カルパート・ルーシのジェノサイド100周年と現在」について打合せしたことを報告した¹¹³。会議のテーマは、100年前のルシン人に対するジェノサイドは「今日のウクライナがロシア世界に属すこと、マイダンのイデオロギーとウクライナの反ロシア・プロジェクトが外部の『EU 統合派』の捏造であることの証左である」などという支離滅裂な内容であるが、グラジェフは「スパシーバ、このテーマは積極的に展開しなければならない。メドヴェドチュクとは私が話した。賛同してくれている。ウジゴロド、キエフ、モスクワで運動が必要だ」と答えている¹¹⁴。ルシン・カードは2014年から2015年にかけて「ザカルパチア連邦化計画」としてウクライナ不安定化のプロジェクトのひとつとなる（布井2016）。

「ユゴ・ヴォストーク（南東部）」、または「ノヴォロシア」

2016年8月にウクライナ最高検察庁が公開した通話記録（いわゆる「グラジェフ・テープ」）によれば、2月27日、グラジェフは、23日にハリコフのユーロマイダンを襲撃し、州庁舎を占拠した親露派集団「オプロト」代表エヴゲーニ・ジーリンの秘書との通話が確認された。3月1日にはオデッサの親露派活動家ヴァレリー・カウロフがグラジェフの補佐官トカチュクに対しオデッサの州議会議事堂を占拠したことを報告し（注：報道ではオデッサ州議会占拠は3日）、早急な支援を要請している（オデッサの親露派をグラジェフに仲介したのはフロロフであるとされる）。また、3月1日にグラジェフは「アナトーリ・ペトロヴィッチ」を名乗る者との電話で「指導部からウクライナの人々を蜂起させろと直接の指示」があったことを伝え、ザポロージェ（グラジェフの出身地でもある）が沈黙していることに焦りを見せるとともに、「バンデラ派から守るため、ロシアへの支援を求めさせろ」、「大統領がもう署名したんだ（注：同日連邦院が大統領に外国での軍事力行使を許可）。作戦は開始された」と述べた。また、ロシアの介入に正当性を持たせるため州議会を占拠して議員を説得し、州議会名でプーチンに軍派遣を要請せよ、と指示した¹¹⁵。

¹¹¹ frolov_moskva@mail.ru, e-mail to prm_glaziev@gov.ru, “Русинский вопрос”, 2013-11-20, 17:20:56 +0400.

¹¹² frolov_moskva@mail.ru, e-mail to glaziev@bk.ru, “русинская карта”, 2014-01-26, 14:33:28 +0400.

¹¹³ frolov_moskva@mail.ru, e-mail to glaziev@bk.ru, “Уже связались Я и телефон ключевой Ткачуку 050-3171080- О. Дмитрий Сидор, Ужгород”, 2014-02-13, 10:31:56 +0400.

¹¹⁴ glaziev@bk.ru, e-mail to frolov_moskva@mail.ru, “Re: Уже связались Я и телефон ключевой Ткачуку 050-3171080- О. Дмитрий Сидор, Ужгород”, 2014-02-13, 16:38:19 +0400.

¹¹⁵ 他方、これらの計画はグラジェフが思い描いたようには進まなかった。例えば、ハリコフの親露派は州庁舎を占拠したが州議員は説得に応じなかった。ルガンスクは3月2日に州庁舎を占拠したが、州議会は

「フロロフ・リークス」には「グラジエフ・テープ」の裏付けとなるやりとりが残されている。2月23日、フロロフはオデッサ府主教の補佐ノヴィコフ長司祭から得た情報としてグラジエフに「オデッサのアンチマイダン—1万人プラス武装部隊」を率いるデニス・ヤツェク、アントン・ダヴォドチェンコを紹介した¹¹⁶。また、プーチンがインタビューでウクライナ南東部のロシア語住民保護のために軍事力の行使の権利を留保すると発言した3月4日、フロロフはグラジエフに、「オデッサを攻略すればすべてがはるかに簡単になる」と主張し、「妥協のためオデッサを犠牲にしてクリミアで止める」のはウクライナに海への出口を与え危険であると警告した¹¹⁷。ロシアは「オデッサを経由して沿ドニエストルも攻略」できるため、「オデッサはクリミアと同等」と主張し、具体的計画はカウロフらが作成中であるとした。まもなく、カウロフに大急ぎで作成させたオデッサの計画と見積りをフロロフはグラジエフに転送した¹¹⁸。しかし、資金やメディア支援の不足を理由にクリミアなどの他地域からの援助がない限り何もできないことを嘆いた、「オデッサ正義義勇隊」名のA4サイズ1枚の計画は、誰が読んでもお粗末な内容ですぐに作り直しを命じられている。4月19日、フロロフはグラジエフに、「明日14時にオデッサのクリコヴォ・ポーレ広場でオデッサ・ノヴォロシア人民共和国の創設が宣言される」と伝え、メディアの支援を要請したが¹¹⁹、モスクワに逃亡したカウロフを首班と「人民共和国」はオデッサの他のアンチマイダン・グループの支援すら得られなかった¹²⁰。

怯える司祭

一方、同じ日にフロロフは、オデッサのノヴィコフ長司祭に「偉い上司たちと会議した。軍の投入に反対はない。でも、各地方を最大限に活性化する必要がある。私はオデッサ州とニコラエフ州の担当（куратор）となった。私の目の前でKFZ（注：ザトゥーリン CIS 諸国研究所長）がオデッサへの支援を交渉した」と伝えた。それに対し、ノヴィコフは、3月6日にオデッサ州議会を占領する計画があるが、ウクライナ保安庁や検察庁が分離主義者を刑事事件で起訴すると脅しをかけている状況を伝え、「活性化は『クリミア自衛』部隊の支

独立投票やプーチンへの呼びかけの採択を拒んだ（後日計画からだいぶ遅れて、5月5日に独立投票の実施を採択）。ドネツクだけは州議会名でプーチンに平和維持軍派遣を要請したが、それも4月7日になってからだった。

¹¹⁶ frolov_moskva@mail.ru, e-mail to glaziev@bk.ru, “Глазьеву от затулину от о. Андрея Новикова”, 2014-02-23, 22:33:13 +0400.

¹¹⁷ frolov_moskva@mail.ru, e-mail to glaziev@bk.ru, “Русины и Новороссия”, 2014-03-04, 12:52:59 +0400. なお、同じメールでフロロフは「ポドカルパート・ルーシ首相ピョートル・ゲツコが木曜に訪ねてくる」ことも報告している。また、全く同じ内容のメールが Алексей Игоревич dr.agsv@yandex.ru にも送られている。

¹¹⁸ frolov_moskva@mail.ru, e-mail to glaziev@bk.ru, “Внимание.ПЛАН ПО ОДЕССЕ. И Смета”, 2014-03-04, 13:35:55 +0400.

¹¹⁹ frolov_moskva@mail.ru, e-mail to glaziev@bk.ru, sbattchikov@rambler.ru, “Завтра в 14 часов на Куликовом поле в Одессе будет объявлено о создании Одесско- Новороссийской Народной Республики. Просьба СМИ”, 2014-04-19, 15:39:20 +0400.

¹²⁰ “Лидеры Антимайдана открестились от Одесской народной республики,” *ИА Одесса Медиа*, 17 апреля 2014г. <http://odessamedia.net/obzor-pressi/lideri-antimaidana-otkrestilis-ot-odesskoi-narodnoi-respubliki/>

援があったときにのみ可能」と返事した¹²¹。一方、3月6日、ドネツクでパーヴェル・グバリオフを含む70人以上の活動家が拘束されたことに恐れをなしたノヴィコフはフロロフに、「ドネツクの連中はすべてロシアの指示で、セルゲイ・ユ・チ〔注：グラジエフ〕が我々に支持するとおりにやった」、「プーチンは約束した通り『ロシア語市民に対する弾圧の際』は軍を連れて来てくれるのか」と迫り、グバリオフ解放までは一切の活動を停止するとフロロフに伝え¹²²、4月にはロシアに逃亡した。ロシア・メディアに対しキエフの新政権の脅迫を訴え、キエフは「ロシア人とウクライナ人は異なる民族であり、一方が劣等人種、他方が優勢人種で、劣等人種とその宗教にはウクライナには居場所がない」とし、「モスクワ総主教をウクライナから物理的に排除するだろう」と述べた¹²³。

フロロフの暴走？

また、フロロフのもうひとつの「担当」のニコラエフ州については、ノヴィコフから同州の親露関係者（ノヴィコフの弟）の連絡先を提供された¹²⁴。しかし、3月13日に抗議運動の核となるはずだった「コンスタンチン」がウクライナ保安庁に拘束され、「リーダー不在で鎮静化しつつある。住民も活動的でなくなりつつある」とノヴィコフの弟ユーリー・リスケからフロロフに報告されている¹²⁵。それでも、フロロフはあきらめない。フロロフはグラジエフ、トカチュクに対し、「マクシム・ミシチェンコ」なる者が作成した3月16日のニコラエフ市の「人民投票（Народный референдум）」の投票用紙の電子データを送っている。13日の深夜までに印刷所に出さなければいけないことから「至急」のタイトルで送られた。質問は、2つあり、「1. あなたはウクライナの連邦制度を支持しますか？」と「2. あなたはウクライナの構成内で、ニコラエフ、オデッサ及びヘルソン州を含むノヴォロシヤ連邦管区の設置を支持しますか？」で、「はい／いいえ」で答える形式になっている¹²⁶。その数時間後、トカチュクは質問を修正したファイルをフロロフに送った¹²⁷。そこでは最初の質問はそのままだが、2つの質問の内容が変更され、「あなたはウクライナがベラルーシ、カザフスタン及びロシアとの関税同盟に加盟することを支持しますか？」に変わっている。「ノヴォロシヤ」は時期尚早と判断されたのだろうか。これに対し、フロロフは、「〔南東部〕のチャンスはない。キチガイのフロロフがバカげたことを言っているだけ

¹²¹ priestnov@rambler.ru, e-mail to frolov_moskva@mail.ru, “Re:”, 2014-03-04, 14:49:00 +0200. 受信箱のノヴィコフのメールにフロロフの元メール（14:16）が引用されているが、フロロフの送信箱にはこのメールは残っていない。意図的に削除したのだろう。

¹²² priestnov@rambler.ru, e-mail to frolov_moskva@mail.ru, “RE: Re[4]: Fwd[3]: СРОЧНО!”, 2014-03-06, 09:51:56 +0400.

¹²³ “Из СБУ уже никто не возвращается: Сбежавший с Украины священник рассказал о гонениях на Московский патриархат,” *Взгляд*, 15 апреля 2014г. <https://vz.ru/world/2014/4/15/682187.html>

¹²⁴ priestnov@rambler.ru, e-mail to frolov_moskva@mail.ru, “Re: Re[2]: your mail”, 2014-03-04, 19:50:05 +0200.

¹²⁵ 4riska@gmail.com, e-mail to frolov_moskva@mail.ru, “Николаев”, 2014-03-14, 12:53:05 +0200.

¹²⁶ frolov_moskva@mail.ru, e-mail to glaziev@bk.ru, serg1784@mail.ru, “срочно Николаев”, 2014-03-13,

18:38:23 +0400.

¹²⁷ frolov_moskva@mail.ru, e-mail to glaziev@bk.ru, serg1784@mail.ru, “Fwd: Re[7]: c”, 2014-03-13, 22:38:15 +0400.

だ」と自分を批判する者がいることを認めたとうえで、それでも「ロシアがいま南東部に行かなければ、みんな潰されて終わりだ」としつつ支援を要請している¹²⁸。

また、3月16日にトカチュクはフロロフに対し、「南東部の戦術的課題に加え、現段階では、いわゆるキエフの政権が3月21日に署名の意向を示すEU連合協定の政治条項が憲法違反で許しがたいことであるという問題を早急に提起することが重要」と伝えた。そのためには南東部の1、2州でよいので州議会で検討を開始する必要があるとして、とりあえずの「例として」ハリコフとドネツクの州議会の決定文書案をフロロフに送り、誰を通じて決定を実現したらよいかアドバイスを求めた¹²⁹。

スルコフの隠密外交

2015年2月の「ノーヴァヤ・ガゼータ」紙は、2014年2月4日から12日の間（すなわちヤヌコヴィッチ逃亡以前）にクレムリンに持ち込まれたという文書を入手したとして、そのほぼ全文を公開した。同文書には、ヤヌコヴィッチ政権崩壊後にウクライナからクリミアや東部を分離するための根拠や政治・PR活動が詳細に記述されており、ほぼ現実の展開と一致するという（同計画ではクリミアと並びドンバスではなくハリコフを親露派の工作対象地として挙げている）。また、クリミアと東部の併合はロシア経済にとっての重荷となるが「地政学的には計り知れない勝利」になると評価する。文書はコンスタンチン・マロフェエフが作成に関与し、ロシア戦略研究所レオニード・レシェトニコフ（元対外諜報庁将官）を通じて大統領府に持ち込まれたと見られている¹³⁰。

2014年2月中旬に「クレムリンに近い2つの情報源」を引用した gazeta.ru の報道によれば、スルコフがウクライナを担当していることは2013年末頃にはクレムリン内に知れ渡っており、非公式な大統領特別代表としてウクライナ指導部との交渉権限を与えられていたとされる¹³¹。この記事によれば、スルコフはウクライナでユーロマイダン参加者と政権側の対立が混迷を深めていた2014年の1月末及び2月14日にプーチンの密使としてキエフ

¹²⁸ frolov_moskva@mail.ru, e-mail to serg1784@mail.ru, “Re[8]: Fwd: c”, 2014-03-13, 22:47:38 +0400.

¹²⁹ serg1784@mail.ru, e-mail to frolov_moskva@mail.ru, “от С.Ткачука”, 2014-03-16, 15:47:00 +0400.

¹³⁰ Андрей Липский, “Представляется правильным инициировать присоединение восточных областей Украины к России,” *Новая газета*, 24 февраля 2015г. <https://www.novayagazeta.ru/articles/2015/02/24/63168-171-predstavlyatsya-pravilnym-initsirovat-prisoedinenie-v-ostochnyh-oblastey-ukrainy-k-rossii-187> 同記事を書いた記者のインタビューは以下を参照。Данила Гальперович, “Андрей Липский: Наша публикация отражает ментальное состояние власти”, *Голос Америки*, 27 февраля 2015г. <https://www.golos-ameriki.ru/a/dg-andrey-lipsky-novaya-gazeta-interview/2661234.html> なお、ロシア戦略研究所は2009年頃に対外諜報庁の公開情報分析部門が分離して大統領府が抱える機関になり、従来の事実に基づく客観的な情報分析に加え、イデオロギー・プロパガンダも業務に追加された。レシェトニコフが白軍・ロシア正教崇拝を持ち込む。2013年は副所長のグゼンコヴァ等が大統領府の発注でウクライナをユーラシア統合に引き込む目的のイデオロギー的記事を大量に拡散、テレビ解説にも引っ張りだこだった。アンチ・ウクライナのイシチェンコ、ロゴフなども同研究所が抱えた。А.Сытин, “Анатомия провала: О механизме принятия внешнеполитических решений Кремля”, *БРАМБУ*, 5 января 2015г. <http://bramby.com/ls/blog/rus/1841.html>

¹³¹ Наталья Галимова, “Тайный посланник: Владислав Сурков ведет активные переговоры с украинскими политиками,” *Газета.ru*, 21 февраля 2014г. https://www.gazeta.ru/politics/2014/02/20_a_5919041.shtml

でヤヌコヴィッチ大統領と秘密裡に会談している。2月14日にはヴィルクル副首相とケルチ海峡の輸送回廊（橋）建設プロジェクトについて協議し、その後クリミアに移動してモギリョフ・クリミア自治共和国首相ともやはり同じプロジェクトについて協議したとされる。記事はクレムリン筋の情報源を引用して、スルコフが担当する二つの主要な課題は、「ロシア・ウクライナ国境地域の経済協力問題」とケルチ橋プロジェクトであるという。一方、ペスコフ大統領報道官はメディアの照会に対しスルコフのウクライナへの関与自体を確認できないと否定した。ウクライナとの国境地域の経済協力やケルチ橋プロジェクトはいずれも従来から政府間で協議が行われていた分野であるが、ズラボフ駐ウクライナ大使（元保健大臣。2009年8月から駐ウクライナ大使。2010年から「ウクライナ担当大統領特別代表」という肩書も持っていたといわれる¹³²⁾ という公式ルートを通さずに、スルコフが隠密に両国を行き来しなければならなかった目的が何だったのかは考えてみる必要がある。なお、この訪問でスルコフはメドヴェドチュクとも会っていたのではないとも言われる¹³³⁾。

また、Inforsist のティムチュクが入手した情報によれば、マイダンの狙撃で多くの犠牲者が出た2月20日、キエフのボリスポリ空港にロシア連邦保安庁の関係者ら計7名が非公式に到着し、マイダンのデモ弾圧の調整役とみられるウクライナ保安庁関係者の出迎えを受けた。ティムチュクはこの7名の氏名と所属を発表したが、そこにはウクライナを担当するベセダ連邦保安庁第5局長（作戦情報国際関係）の他にスルコフと「1984年生まれのアレクサンドル・パヴロフ」（スルコフの直属の部下）も含まれた。ティムチュクの情報源によれば、ヤヌコヴィッチ大統領を感化するために送られ、スルコフは「ハリコフで分離派の大会」を開催する指示を出したという¹³⁴⁾。報道後、連邦保安庁は在キエフ・ロシア大使館の警備について相談するためだったと釈明したが、ティムチュクはロシア大使館の警備は本来連邦保安庁の外局である国境警備隊が担当しており、2月20日の一行にはロシア大使館からの出迎えもなかったことを指摘した¹³⁵⁾。

また、ウクライナ訪問の合間を縫って2月13日、スルコフは、チェスナコフのアレンジでオレグ・ボンダレンコ（ロシア・ウクライナ情報センター所長）、エヴゲーニ・ミンチェンコ（政治分析国際研究所）、セルゲイ・ミヘエフ（「ポリトーログ」¹³⁶⁾）らを集めて会議を

¹³²⁾ Сурначева и др. "Многоглавый орел"

¹³³⁾ Сурначева и др. "Многоглавый орел"

¹³⁴⁾ 少なくともヤヌコヴィッチは大統領当時は連邦化にも反対し、単一ウクライナを支持していたはずなので、ヤヌコヴィッチに対する「指示」ではないだろう。2月23日のハリコフの議員総会はドブキン・ハリコフ知事、モギリョフ・クリミア自治共和国首相などの参加を得て行われているが、グラジエフやフロロフは参加していない。

¹³⁵⁾ "Тымчук опублікував список агентів ФСБ, які, якби, допомагали Януковичу розганяти Майдан,"

112.ua, 5 апреля 2014г.

<https://112.ua/politika/tymchuk-opublikoval-spisok-agentov-fsb-pomogayuschih-yanukovichu-razgonyat-maydan-45171.html>

¹³⁶⁾ ロシア語の「ポリトーログ」は辞書には「政治学者」という意味しか載っていないが、昨今の実態からすればメディアに登場するポリトーログの大多数は「ポリテフノーログ」（政治技術屋）に近いものである。

行っている¹³⁷。これらの政治技術屋は2月から3月にかけてさまざまなメディアに専門家として登場して、「デモ隊と治安部隊の衝突は内戦」、「合法政権はクリミア共和国を含む南部に」、「マイダンはオリガルヒの闘争」など複数の異なるテーマで攪乱作戦を行うことになる。

ヤヌコヴィッチのキエフ脱出後の2月24日、スルコフはロモダノフスキー連邦移民庁長官から、その秘書を通じ、2010年から2013年にかけてCIS諸国（ベラルーシ除く）の全人口1.21億人のうち34.5%、労働力人口0.55億人のうち63.8%がロシアに入国した旨報告を受けている¹³⁸。資料には最大の入国者数がウクライナからであり、2010～2013年の4年間で約1200万人が入国したことが示されている¹³⁹。

ドダバタ劇？優雅な執筆活動

クリミアの共産党の重鎮レオニード・グラチはクリミア併合から3年後のインタビューに対し、クリミア併合における2005年以降のパトルシェフFSB長官（当時）の貢献を称えた（具体的な関与の詳細は語らなかった）¹⁴⁰。グラチによれば、2014年2月23日、グラチのもとをベラヴェンツェフ（のちにクリミア大統領全権代表）が訪れ、情勢について意見交換した。ベラヴェンツェフは26日、再びグラチを訪ね、電話の向こうからショイグー国防相がグラチに首相就任の要請をしたとする。グラチは「コンスタンチノフ議長や地域党から嫌われている」ことを理由にこれを断った¹⁴¹。また、これとほぼ同時に、2005年からクリミアを担当するFSBの将官もグラチに面会を要請した。しかし結果的に、「ロシアの統一」のセルゲイ・アクシノフが「首相」に選ばれ、グラチはFSBから住民投票への呼びかけを要請されたが「ヤクザ」には協力しないと断った。

また、「グラジエフ・テープ」によれば、2月24日（注：以下全て日付はウクライナ最高検察庁による）にザトゥーリンCIS研究所所長が「明日からクリミアに入る」旨グラジエフに報告し、28日にグラジエフとザトゥーリンはコサックに対する報酬¹⁴²やクリミアの「執

¹³⁷ alalchesn@gmail.com, e-mail to prm_surkova@gov.ru, “список участников встречи на 18:00 с телефонами”, 2014-02-13, 07:21:34 +0300.

¹³⁸ apparat.dir@gmail.com, e-mail to prm_surkova@gov.ru, “таблица для В.Ю.Суркова от К.О.Ромодановского по договоренности”, 2014-02-24, 14:24:02 +0300.

¹³⁹ この点は3月18日のプーチンのクリミア併合演説でも以下のように触れられている。「政権等は一般市民が何をもってどんな暮らしをしているのか、どうして数百万人のウクライナ国民が自国では自分の将来に展望を見いだせず、日雇い労働のために外国へ出て行かなくてはならないのかにはほとんど興味がありませんでした。指摘しておきますが、シリコンバレーへの就職ではなく、日雇いの出稼ぎです。昨年のロシアだけでも、そういった人々が300万人も働いていました。2013年に彼らがロシアで稼いだ金額は200億ドル以上であるという試算もあり、これはウクライナのGDPの12%にあたります。」

¹⁴⁰ “«Если бы нас не поддержал Патрушев, в Крыму стоял бы американский флот» Интервью крымского политика Леонида Грача о том, как ФСБ помогала Крыму с 2005 года,” *Медуза*, 22 марта 2017г.

¹⁴¹ ただし、2015年のインタビューでは、2月27日、コンスタンチノフがグラチを好かないという理由から「計画が変更になった」と述べている。 Федор Стоянов “Леонид Грач: Аксенов сначала говорит, а потом думает,” *Крым.Реалии*, 9 апреля 2015г. <https://ru.krymr.com/a/26947587.html>

¹⁴² 20日にクリミア・コサックの自警団が結成された旨露国営メディアが報道している。“Крымские казаки объединились для защиты полуострова и рассчитывают на помощь России,” *RT*, 20 февраля 2014г.

行機関」の代表者を誰にすべきかなどを相談した¹⁴³。また、松里（2014）が「3月6日のミステリー」と呼んだ住民投票の繰り上げと質問の変更に関連して、同日、グラジェフはアクショノフに対し、住民投票の質問の表現がよくない、これは私だけの意見ではない、「ウクライナ内での『国家的自立』」では誰も投票しない、質問は誰にでも分かりやすくすべきと述べ、アクショノフも同意した。この日以降、投票の質問は「クリミアとロシアとの再統合」に変更された。

この期間のスルコフの動静は聞こえてこない（スルコフ・リークスにもウクライナ関係の特別な動きは表れない）。にもかかわらず、ロシアのクリミア併合直後の3月17日に米国が発表した制裁対象者リストのトップはスルコフだった。スルコフはこれを「ロシアに対する自分の功績を認めてくれたもの」と余裕を見せた¹⁴⁴。また、EUも21日にスルコフを制裁リストに掲載するが、スルコフは22日にはナタリヤ夫人とスウェーデンを旅行している写真をインスタグラムの自身のものとみられるアカウントに公開して周囲を驚かせた¹⁴⁵。また、Treisman（2014）は3月6日にスルコフがギャラリーのオープニングイベントに参加し、12日には短編小説（Dubovitsky 2014）を発表するなどしており、ヤヌコヴィッチを政権に留めるという課題に失敗した（Zygar¹⁴⁶）ことから、対ウクライナ政策から一時的に外されたと分析している¹⁴⁷。クリミア併合の準備が着々と進んでいた最中に家族とスウェーデン旅行を楽しむことなどありえないから、この時期にスルコフは担当から外されたと見てよいのだろうか？

しかし、ここに面白い記事がある。3月19日付 TheDailyBeast.com は、ホワイトハウスの情報源を引用し、米国はロシアの対ウクライナ・プロパガンダやクリミアの住民投票はスルコフが仕掛けたものと見ていたとしたうえで、ウクライナのオレンジ革命の際にスルコフを補佐した政治技術屋のセルゲイ・マルコフが、スルコフは「クレムリンでもウクライナでも主導的な役割を果たしていない」、「いい加減なウクライナの情報機関がワシントンのためにリストを作成した」と話したことを紹介している。また、マルコフによれば2013年の数か月間スルコフは退陣した「親クレムリン政府」（ママ。ヤヌコヴィッチ・アザロフ政府を指す）のコンサルティングに再び従事していたが、「ウクライナの住民ではなく、愚かな指導者たちと働くという過ちを犯した。クリミアで人々と仕事を始めてすぐに90%の住民がロシアと一緒にいたいと考えていることに気づいた、ウクライナの東部でも同じ

<https://russian.rt.com/article/22668>

¹⁴³ "Кто есть кто в прослушке переговоров Сергея Глазьева," *Conflict Intelligence Team*, 23 августа 2016г.

<https://citeam.org/glazhev-whoiswho/>

¹⁴⁴ Наталья Рожкова "Владислав Сурков рад санкциям США: «Это большая честь для меня!»" *МК*, 17 марта 2014г.

<http://www.mk.ru/politics/article/2014/03/17/999473-vladislav-surkov-rad-sanktsiyam-ssha-eto-bolshaya-chest-dlya-menya.html>

¹⁴⁵ "Сурков удивил Рунет, сфотографировавшись в Стокгольме, несмотря на санкции ЕС," *ЗНАК*, 24 Марта 2014г.

http://www.znak.com/2014-03-24/surkov_udivil_runet_sfotografirovavshis_v_stokgolme_nesmotrya_na_sankcii_es

¹⁴⁶ Михаил Зыгарь, "Долгожитель Шойгу. Отрывок из книги "Вся кремлевская рать""", *Сноб*, 5 октября 2015 г.

<https://snob.ru/selected/entry/98773>

¹⁴⁷ Treisman, Daniel. "Why Putin Took Crimea." *Foreign Affairs* 95.3 (2016).

ことが起こるだろう」と語っている。また、マルコフは、過去1か月半のウクライナのオペレーションの指示はスルコフとは別の者から出されていたと証言した。スルコフとパヴロフスキーが立ち上げた反欧米「NGO」の青年運動「ナーシ」（これも政治技術の賜物である）のメンバーで国家院議員のロベルト・シュレーゲルも同様にスルコフの関与を否定した¹⁴⁸。そしてこの記事は、発表翌日（20日）にチェスナコフからスルコフに報告された¹⁴⁹。スルコフの息がかかった政治技術屋2名が欧米メディアに対してわざわざ、スルコフは関与していない、と否定する。これは何を意味するのだろうか？

ロシアのクリミア併合後、3月23日付ガーディアン紙に「かつてのクレムリンのスピンドクター」として紹介されたパヴロフスキーは、「ヤヌコヴィッチが逃亡を強いられ、ウクライナに対するロシアの体系的な影響力は終わりを告げた。プーチンはロシアの立場を強化しなければ誰もロシアの言うことに耳を傾けることはないと感じた。だから、彼は立場を強化したのだ」と語っている¹⁵⁰。これより5か月も前にパヴロフスキーは、ヤヌコヴィッチは「いかなる状況においてもロシアの信頼に足るパートナーとはなりえない」とスルコフに報告している。なお、チェスナコフも3月7日付ニューヨークタイムズ紙に「政治戦略家・かつてのクレムリン側近」と紹介されたうえで、「このこと〔プーチンのクリミア介入〕はおそらく今日決まったというよりも、ウクライナの当局が21日の妥協〔与野党合意〕に回帰することができないことが明らかとなったことに触発されたものだ」と述べた¹⁵¹。

これらは、「クレムリンの対応が受動的だった」と印象づけるためのスピンの一種だろう。元クレムリン関係者というインサイダー的立場を装って、内部の意思決定に迫りたいという記者や読者の心理を巧みに利用した政治技術とみられる。

4. 占領マネジメント

人事

わざわざ公の場で住民投票の延期を要請したプーチン大統領の面目をつぶすかの如く、両「人民共和国」は2014年5月11日に投票¹⁵²を予定通り決行した¹⁵³。しかし、その2日後

¹⁴⁸ Anna Nemtsova, Eli Lake, "Is This the Mastermind Behind Russia's Crimea Grab?," *The Daily Beast*, 19 march 2014.

¹⁴⁹ pavlov.as.one@gmail.com, e-mail to prm_surkova@gov.ru, "Fwd: Ч", 2014-04-20, XX:XX:XX +0300.

¹⁵⁰ Shaun Walker, "Ukraine and Crimea: what is Putin thinking?," *The Guardian*, March 23, 2014.

¹⁵¹ Steven Lee Myers, "Russia's Move Into Ukraine Said to Be Born in Shadows," *The New York Times*, March 7, 2014.

<https://www.nytimes.com/2014/03/08/world/europe/russias-move-into-ukraine-said-to-be-born-in-shadows.html>

なお、本記事のなかではフォードル・ルキヤノフ『世界の中のロシア』編集長、マーク・ガレオッティ・ニューヨーク大学教授、ドミトリ・トレニンらも、ロシアのクリミア併合が「受動的」、「場当たりの」なものであると評した。さらに、「クレムリンに助言する政治戦略家」のセルゲイ・マルコフも今後のプーチンの行動はまだ分からないとした上で「彼は即興で行う」と語った。

¹⁵² この住民投票を巡っては、合法性以前の問題として、「自立的国家性」を問うだけ、「引き続きウクライナの一部である」（リャギン DPR 選挙管理委員長）、LPR の「独立」宣言（ボロトフ LPR 人民知事）、DPR

の13日、政商マロフェエフの秘書はスルコフの秘書に「重要度：高」フラグをつけて「ドネツク共和国政府の候補者リスト」を送り、スルコフに速やかに渡すよう依頼している¹⁵⁴。計20のポストを含むリストには丁寧に、候補者の信頼性に関する情報（「※我々によって確認済み」等）が付されている。「首相」ポストは空欄となっているが、「ドネツク市軍司令官」に指名されたアレクサンドル・ザハルチェンコが「候補として検討される」と文末注に記されている。15日から16日にかけて実際にほぼこのリストのとおり、デニス・プシリン「最高会議議長」、イーゴリ・ストレリコフ「国防省」、アンドレイ・ブルギン「副首相」、アレクサンドル・ホダコフスキー「国家保安庁長官」らが選出された¹⁵⁵。ただし、リストでは空白だった「首相」ポストにはマロフェエフが推薦したザハルチェンコではなく、マロフェエフの政治コンサルタントであったアレクサンドル・ボロダイが充てられている。ドンバス出身の現地人でなくロシア国民のボロダイが「首相」に選出されたことについて、一部の識者は、モスクワがわざわざウクライナ側に「ロシアの介入」の証拠を与えるのではなく、これはストレリコフやボロダイのような根っからの極右思想を持つ者が「国家・民間パートナーシップ」の枠を越えて自らの理想を追い求めた結果であって、モスクワがドンバスで起こっていること全てを裏で操っていると考えるのは現実を単純化しすぎであると評した¹⁵⁶。しかし、スルコフは、氏素性の知れない現地人ザハルチェンコよりも、政治技術に長け且つマロフェエフ・チームで実績のあるボロダイのほうが管理しやすいと判断したのだろう。ボロダイはたとえロシア国民であっても、所詮「義勇兵」や「ボランティア」であるから、クレムリンとしてはなんら承知しないと言って涼しい顔していればよい。この戦術は7月のマレーシア機撃墜事件によって国際社会の関心や非難がロシアによるドンバスの活動に集中することにより変更を迫られる。

7月29日、チェスナコフはマレーシア機撃墜後の主要欧米メディア（CNN、BBC、ワシントンポスト紙等）の論調の分析結果をスルコフに報告した¹⁵⁷。分析は、マレーシア機撃墜後に欧米メディアのDPRやその指導部に対する関心が著しく高まったこと（「ルガンスク人民共和国」（以下「LPR」）への関心が低いのは対照的）、DPRのなかでも特にロシア出

の「主権国家」宣言、「ロシアへの編入要請」（プシリン DPR 臨時政府共同議長）、といった具合に解釈がバラバラであることが興味深い。

¹⁵³ この延期要請は「ノヴォロシア」建国を望む者を実際に失望させたようである。Александр Дугин, "Пиррова победа возвращения: аппаратные битвы Москвы и судьба Новороссии," *Свободная пресса*, 22 августа 2014 г. <http://svpressa.ru/politic/article/96094/>

¹⁵⁴ Alena.Bogomolova@marcap.ru, e-mail to prm_Surkova@gov.ru, "scan", 2014-05-13, 12:29:47 +0300.

¹⁵⁵ Григорий Набережнов, Ася Сотникова, Александр Артемьев, "Премьер-министром ДНР стал политолог из России," *РБК*, 16 мая 2014 г. <http://www.rbc.ru/politics/16/05/2014/57041cd19a794761c0ce9e16>

¹⁵⁶ Олег Кашин, "Из Крыма в Донбасс: приключения Игоря Стрелкова и Александра Бородая," *Slon*, 19 мая 2014 г.

https://republic.ru/russia/iz_kryma_v_donbass_prikluyeniya_igorya_strelkova_i_aleksandra_borodaya-1099696.xhtml このようにボロダイがモスクワから距離を置いた独立のプレイヤーであるという見方は同人の過去の経歴や思想（ザフトラ紙など超愛国的背景）への関心とも併せて、欧米の主要メディアでそれなりのウエイトを占めた。Sabrina Tavernise, "In Ukraine War, Kremlin Leaves No Fingerprints," *The New York Times*, May 31, 2014.

https://www.nytimes.com/2014/06/01/world/europe/in-ukraine-war-kremlin-leaves-no-fingerprints.html?_r=0

¹⁵⁷ a704814@gmail.com, e-mail to prm_Surkova@gov.ru, "От АЧ", 2014-07-29, 10:39:31 +0300.

身のボロダイ、ストレリコフが多くメディアに露出しているが、グバリョフ、プルギン、プシリンなどのドンバス出身者にはほとんど関心が向けられておらず、この傾向は義勇兵をモスクワに管理された勢力であると見せたい欧米の報道姿勢に理由があったとした。

8月に、ボロダイやストレリコフのマロフェエフ・チームは「転職」を理由にドンバスから撤退する。帰国に際しボロダイは「危機管理マネージャ」としての自分の役目は終わったのでアレクサンドル・ザハルチェンコに「首相」職を譲ったと述べたが¹⁵⁸、実際にはマレーシア機撃墜に関する欧米の批判がモスクワ出身者を通してクレムリンに向かうことを避ける意図もあったものとみられる。ストレリコフは帰国後、「ドネツク市軍司令官」のザハルチェンコはロストフでスルコフに会った後「首相」となって帰ってきたこと、ボロダイは当初「スルコフ側の人間」ではなかったがすぐにスルコフに仕えるようになった、と述べた¹⁵⁹。

ただこうした DPR の「現地化」は外見だけである。モスクワは政治顧問を通してすべての重要なプロセスを管理する。2015 年秋頃にはラトヴィア生まれのアレクサンドル・カザコフ「自由保守政治センター」所長をザハルチェンコ DPR 首班の顧問として送った（「ケーススタディ」を参照）。また、LPR にはモスクワとの連絡役の政治顧問としてパーヴェル・カルポフ・モスクワ市公共評議会委員（現地活動名「ニコライ・パヴロフ」）が送り込まれた。

予算

5月16日には「イリーナ・ヤルマク」なるハリコフ在住（メールアカウントのプロフィールから推定可）の女性からスルコフにウクライナ東部の各州から政治・社会組織の活動家がドネツクやルガンスクで行われる会議に参加する旅費がエクセル形式で報告されている¹⁶⁰。19日には同じ人物から中部・東部の親露派活動家25名のリストが送られている¹⁶¹。親露派のリクルートに使う資料と思われるが、ファイルのタイトルがハリコフを代表する親露派活動家の名前（イーゴリ・）「マサロフ」（本人もリストに「ウクライナ南東部人民同盟」所属として記載）となっていることから、マサロフと関係ある者の作成だろう。

26日にはアウデエンコ課長からスルコフに対し、DPR 及び LPR の内務省、保安庁等の職員給与、若者支援、年金基金等に要する当面の費用の試算¹⁶²、続けて 2013 年のドネツク州とルガンスク州の歳入と歳出（年金含む）が国家・地方予算別に報告されている¹⁶³。また、

¹⁵⁸ "Премьер-министр ДНР Александр Бородай подал в отставку по собственному желанию: на должность премьер-министра предложен Александр Захарченко," *TACC*, 7 августа 2014г.

<http://tass.ru/mezhdunarodnaya-panorama/1367364>

¹⁵⁹ "России надо что-то делать, иначе шкуру точно сдерут," *ИА Новороссия*, 8 ноября 2014г.

<https://www.novorosinform.org/comments/id/200>

¹⁶⁰ yarmak.irina@mail.ru, e-mail to prm_surkova@gov.ru, "Fwd[3]:", 2014-05-16, 19:07:04 +0300.

¹⁶¹ yarmak.irina@mail.ru, e-mail to prm_surkova@gov.ru, no subject, 2014-05-19, 19:26:17 +0300.

¹⁶² Avdeenko_VN@gov.ru, e-mail to prm_surkova@gov.ru, no subject, 2014-05-26, 18:07:47 +0300.

¹⁶³ Avdeenko_VN@gov.ru, e-mail to prm_surkova@gov.ru, no subject, 2014-05-26, 21:42:45 +0300.

26日にはコスティン対外貿易銀行総裁からスルコフに対し、ドネツクのオリガルヒ、アフメトフのシステム・キャピタル・マネジメント（SCM）グループ（DTEK、METINVEST等）への融資額（総額942百万米ドル）と返済期日が報告されている¹⁶⁴。

6月16日、DPRのプシリンは「見積り」という件名で、プレスセンター、新聞、情報省等の新設にかかる人件費や機材費をエクセル形式でスルコフに報告している¹⁶⁵。6月18日にはCIS局の経済担当課長のアウデエンコから「LPR及びDPRの経済封鎖のリスク」という文書が送られた¹⁶⁶。それによれば、ドネプロペトロフスクやザポロージャからドンバスの冶金企業へ供給されていた精鉱はロシアのベルゴラド州産で代替すること、ザポロージャから供給されている電力はロストフやヴォロネシの電力網で代替すること、ドンバスの産品は従来のニコラエフ港ではなくマリウポリ港で船積みすることなどが提案されているが、いずれもインフラやロジスティクスの整備が必要となる旨報告されている。

メディア

5月23日、スルコフはチェスナコフから、ウクライナの親露派ブロガーを調べた結果について報告を受けている。ファイル名「ACh[注：チェスナコフ]のための著者」のリストにはのちにクレムリンに出入りすることになるアレクサンドル・チャレンコ、パーヴェル・ドゥリマンなどの名前が見られる。ロシアは紛争の当事者ではないので、ウクライナ人自身が情報発信をしなければいけない¹⁶⁷。また、スルコフは、チェスナコフのアレンジで5月27日にはオレグ・ボンダレンコ、セルゲイ・ミヘエフらと（2月13日の会議とほぼ同じメンバー）、6月3日にはアレクサンドル・カザコフ、ヴィタリー・レイビン、ヴァレリー・ファデエフ（「エクスパート」誌編集長）らと会議を開催した。

6月30日、チェスナコフは部下を通じてスルコフにドネツクとルガンスクのテレビ、新聞等のメディアを「味方」、「味方ではない」などに分類したリストを送っている¹⁶⁸。さらに、ドネツク州でマレーシア航空機が撃墜された翌日の18日、チェスナコフは、ウクライナ各地のジャーナリストやコメンテータ50名超を影響度別に整理したリストをボーイング機事故等に関するニュースの「テーマ集」とともに送っている¹⁶⁹。7月下旬は東部各州のインサイダー情報を含む現地情勢報告がチェスナコフからスルコフに送付されている¹⁷⁰。とくにドネプロペトロフスク州のコロモイスキー知事を警戒していたことが分かる。

また、この時期、クレムリンはLPRにおいて代理人「パヴロフ」を通し、ウクライナ側

¹⁶⁴ solo@vtb.ru, e-mail to prm_surkova@gov.ru, “FW: от Костина А.Л.”, 2014-05-26, 18:08:45 +0300.

¹⁶⁵ denmakmmm@gmail.com, e-mail to prm_Surkova@gov.ru, “Fwd: смета”, 2014-06-16, 20:11:40 +0300.

¹⁶⁶ Avdeenko_VN@gov.ru, e-mail to prm_surkova@gov.ru, no subject, 2014-06-18, 11:47:34 +0300.

¹⁶⁷ o.a.chemodina@gmail.com, e-mail to prm_Surkova@gov.ru, “Fwd: Документы для Чеснакова”, 2014-05-23, 17:34:15 +0300.

¹⁶⁸ o.a.chemodina@gmail.com, e-mail to prm_Surkova@gov.ru, “СМИ ЛНР ДНР”, 2014-06-30, 20:22:27 +0300.

¹⁶⁹ a704814@gmail.com, e-mail to prm_Surkova@gov.ru, “От ач”, 2014-07-18, 16:30:23 +0300.

¹⁷⁰ chesnaa@icloud.com, e-mail to prm_govoruna@gov.ru, prm_surkova@gov.ru, “Мониторинг 20-23 июля.docx”, 2014-07-24, 20:23:08 +0300.

との情報戦争を理由に報道制限、検閲を行うとともに、批判的なジャーナリストは脅迫し、協力的なジャーナリストには褒賞を与えていた¹⁷¹。

7月には「体育会系」のゲオルギー・ブリュソフ（ロシア・レスリング協会副会長）を通じ、ザポロージャの政治技術屋パーヴェル・ブロイドをリクルートし、ロシアとの関係を巧みにカモフラージュしたさまざまな反ウクライナニュースサイトやポータルを計画した¹⁷²。ブリュソフはヤヌコヴィッチに近いオリガルヒ、セルゲイ・クルチェンコの所有するメディアの影響力についても報告しているが¹⁷³、同月末、ロシア逃亡中のクルチェンコはボリュフ連邦保安庁作戦局第一次長に連れられてスルコフと面会している（30日。チェスナコフ、ラポポルト同席）¹⁷⁴。なお、ボリュフは2月20日（マイダンで銃撃戦のあった日）にスルコフとともにウクライナに入国した連邦保安庁関係者のひとりである¹⁷⁵。

なお、2015年に入ると、チェスナコフが行っていたメディア関連の仕事は2015年からオレグ・ボンダレンコ（肩書は「戦略コミュニケーションエージェンシー」代表）に引き継がれた。スルコフは、ボンダレンコのアレンジのもとで2015年7月から約半年間にわたり月1回のペースでメディア関係者の定期会合（6～8名）を開催している¹⁷⁶。メンバーは、アレクサンドル・チェレンコ（ukraine.ru 主筆）、ロスチスラフ・イシチェンコ（「ロシア・トゥデイ」国際解説員）、デニス・デニソフ（CIS 諸国研究所ウクライナ課長）、セルゲイ・ミヘエフ（ポリトローグ）、イーゴリ・コロチェンコ（「国防」誌編集長）、エヴゲーニ・コパチコ（ウクライナのリサーチ&ブランディング・グループ所長）、アレクセイ・コチェトコフ（「民間外交」財団所長）、パーヴェル・ドゥリマン（「ロシスカヤ・ガゼータ」解説員）などアンチ・ウクライナの急先鋒であるが、チャレンコ、デニソフ、コパチコ、ドゥリマンはウクライナ国籍者である。この期間、ボンダレンコからスルコフに多くのメールが送られ、politnavigator.net などに発表された複数の記事を報告している。記事のコメントのほとんどはこの会合メンバーあるいは素性の知れない専門家によるものであり、「ポロシェンコが提出したウクライナ憲法改正案はミンスク合意違反」（7月16日）、「モスクワは『ドンバスはウクライナではない』から『ドンバスはロシア』へ方針転換、DPR/LPR でもアブハジアや南オセチアのようにロシアパスポートの発行へ向けて政府内手続きを進める」（7月17日）、「2025年にウクライナは存在しない」（7月20日）、「ウクライナの懲罰軍がドンバスで働いた残虐行為」（7月20日）などアンチ・ウクライナのコメントをさまざまなメディア

¹⁷¹ "Главари "ЛНР" приехали из РФ для грабежа Луганщины – бывший сотрудник "администрации республики"," *Обозреватель*, 19 сентября 2014г.
<https://www.obozrevatel.com/crime/68473-glavari-lnr-priehali-iz-rf-dlya-grabezha-luganschinyi-byivshij-sotrudnik-a-dministratsii-respubliki.htm>

¹⁷² brusovg@mail.ru, e-mail to prm_surkova@gov.ru, "Fwd: Ориентировка", 2014-07-09, 13:07:27 +0300.

¹⁷³ brusovg@mail.ru, e-mail to prm_surkova@gov.ru, "Fwd: Про СМИ Курченко", 2014-07-16, 21:25:32 +0300.

¹⁷⁴ prm_rapoport@gov.ru, e-mail to prm_surkova@gov.ru, "Список участников_30.07.14", 2014-07-29, 17:27:50 +0300.

¹⁷⁵ ボリュフは2015年6月にロシアの国営資源探索ホールディング会社のGR・企業セキュリティ担当副社長に天下りしている。<http://www.rosgeo.com/ru/content/rukovodstvo-kompanii>

¹⁷⁶ 最初の会合は以下参照。ask1@digitalsafe.com, e-mail to pochta_mg@mail.ru, to_rf@bk.ru, "список на встречу 15.07 в 16:00", 2015-07-13, 20:37:39 +0300.

に大量に拡散した。「スラビャンスクやドネツクを明け渡したストレリコフは真の大佐ではない」(7月20日)のようにスルコフをチェチェン名「ドゥダエフ」で呼ぶストレリコフ批判も忘れない。

神話作り

2014年夏に戻る。6月27日、スルコフは愛国新聞「ザフトラ」主宰のアレクサンドル・プロハノフが「ノヴォロシヤ」を賛美するインタビュー記事について報告を受けている¹⁷⁷。

8月5日、スルコフはチェスナコフ、ラポポルト、ポリャコフの同席の下、6月6日に面会した「活動家」のアレクサンドル・ジンチェンコ(キエフ・アンチマイダン代表)、ウラジーミル・ロゴフ(スラヴ親衛隊代表)、コンスタンチン・ドルゴフ(ハリコフ義勇軍代表)にDPRのプシリンとキリル・ベロシツキー(キエフ政権「犯罪白書」編集者)を加えて会議を開催した¹⁷⁸。主な参加者の肩書が「社会政治運動『人民戦線』」となっていることから会議のテーマは「ノヴォロシヤ」プロジェクトに関することだろう。情報モニタリング資料の名称もこの時期から「ノヴォロシヤ」に変更された¹⁷⁹。

8月25日、ミンスクでの和平交渉の直前、ウクライナ外務省プラホトニウク(現ロシア脅威対応局長)から「ポロシェンコ大統領の和平計画の完全履行のためのウクライナ及びロシア連邦の同時的措置」という文書がスルコフに送られた¹⁸⁰。外務省や国防省を通さずダイレクトに送られていることからスルコフが交渉の直接の窓口であったことが分かる。一方で同日、「すぐに戦争をやめよ!」というドンバス住民名の発表文の内容がCIS局内で調整されている¹⁸¹。9月2日、ウクライナ軍がもたらしたドンバスの破壊と惨状を訴え、対テロ作戦の中止を求めるこの「メッセージ」はほぼ同じ内容で「ルースキー・レポルチョール」誌に掲載され、ロシア国営メディアで現地住民の声として引用された¹⁸²。なお、こ

¹⁷⁷ a704814@gmail.com, e-mail to prm_surkova@gov.ru, “Fwd: Проханов о будущем Новороссии”, 2014-06-27, 17:46:34 +0300.

¹⁷⁸ kaktam.dela@yandex.ru, e-mail to prm_surkova@gov.ru, “Список участников на 16-00 05.08.2014”, 2014-08-04, 15:20:13 +0300.

¹⁷⁹ スルコフ・リークスによれば、CIS局内で2014年5月14日から8月31日まで「今日の動向：オデッサ、ハリコフ、ドネツク、ルガンスク州の出来事」という各地域に関連する報道をとりまとめた資料が作成されているが、7月2日から同じ資料の名称が「今日の動向：ノヴォロシヤの出来事」に変更されている。

¹⁸⁰ a.m.plakhotniuk@gmail.com, e-mail to prm_surkova@gov.ru, “План синхронизации”, 2014-08-25, 17:01:58 +0300.

¹⁸¹ prm_govoruna@gov.ru, e-mail to prm_surkova@gov.ru, “FW: исправления в тексте”, 2014-08-25, 15:00:08 +0300.

¹⁸² あるいはウクライナの一部のメディアもこの呼びかけを拡散した。“Немедленно остановить войну! Обращение общественной организации Гражданская инициатива Донбасса,” *Корреспондент.net*, 2 сентября 2014г.

<http://korrespondent.net/ukraine/politics/3413145-nemedlenno-ostanovyt-voinu-obraschenye-obschestvennoi-orhany-zatsyy-hrazhdanskaia-ynytsyatyva-donbassa> ただ、最終原稿と元の原稿を比べると、25日の案に修正が加えられて発表されたことが分かる。具体的には、「5月11日の国民投票では投票した者もいれば、投票しなかった者もいる。DPRとLPRに賛同する者もいれば反対するもいる」という部分全体、「もし今すぐに戦争をやめればウクライナの統一と欧州の平和はまだ救うことができる」と「ウクライナ指導部に強く働きかけ

の和平交渉の間にも、ロシアは正規軍による大規模な侵攻を進め、イロヴァイスクやノヴォアゾフスクといった要衝をはじめ、ドネツク州の全てのロシア国境地帯を支配下に置いた。

ザハルチェンコ DPR 首班を対象とした神話作りの事例は次項ケーススタディで取り上げる。

ケーススタディ：カザコフ「自由保守政治センター」所長

現地に送り込まれたアレクサンドル・カザコフを取り上げてクレムリンの DPR のコントロールを見てみよう。カザコフは 1965 年ラトビア首都のリガ生まれ。ソ連崩壊後はラトビアのロシア人学校の擁護活動に従事するとともに、ロシア愛国教育を推進する活動家であり、2004 年にはラトビアから国外退去の処分を受けた（ロシア国籍を取得したものとみられる）。右派強硬派で知られるロゴジン（現副首相）の在外ロシア人問題の顧問を務めたほか、公共評議会の環境安全専門家グループ長などの肩書も持つ。なお、元外交官で評論家の佐藤優は、ソ連末期のモスクワで研修生だった頃、当時学生だったカザコフ（サーシャ）がモスクワ大学哲学部のゼミ発表でマルクス・レーニン主義を公然と否定し、ロシア正教の伝統に基づく保守主義の復活を訴えたことに衝撃を受けたと記し、これを「ソ連で初めて聞いた反体制派の演説」、カザコフを「私の人生を一変させた人物」と呼んでいる¹⁸³。

スルコフ・リークスでカザコフが最初に確認されるのは 2014 年 6 月 3 日のスルコフの会議である。「ポリトローグ」の肩書でチェスナコフやレイビンらとともに出席しているが、会議で何が話されたのかは明らかではない。その後しばらくの動静は不明だが、9 月 22 日にモスクワで開催された「ノヴォロシア議会」附属戦略研究センターの初会合でツァリョフ（元ウクライナ最高会議議員、当時「ノヴォロシア議会」議長）の隣で「ノヴォロシア」の理解促進の必要性について力説した模様である¹⁸⁴。また、10 月末には同センター所長の肩書でロシア紙のインタビューに答え¹⁸⁵、ルガンスクでのロシアのロック歌手による「ノヴォロシア」支援コンサート後に右翼系（国家ポリシェヴィズム）人気作家のザハル・プリレービンと記念撮影をしている¹⁸⁶。

2015 年 7 月 17 日、カザコフはスルコフと面談し、27 日にスルコフに書類を提出した¹⁸⁷。

て、停戦に同意させ、統一国家の枠内における平和的解決の課題に戻す必要がある」の下線部が削除されている。この間に、DPR/LPR はウクライナに留まりながら抵抗する存在から、離脱を明確に表明しながら抵抗する存在へとレトリックに変化がみられる。

¹⁸³ 佐藤優『自壊する帝国』、新潮文庫、2008 年。

¹⁸⁴ “В Москве представили Центр стратегического планирования Новороссии,” *Донбасс.Центр*, 22 сентября 2014г. <http://donbass.center/news/1234-v-moskve-predstavili-centr-strategicheskogo-planirovaniya-novorossii.html>
Александр Казаков, Facebook, September 23, 2014

¹⁸⁵ Александр Коц, Дмитрий Степашин, "Политолог Александр Казаков: Перемирие — это риторика. Идет народная война," *Комсомольская правда*, 29 октября 2014 г. <http://www.kp.ru/daily/26301/3179732/>

¹⁸⁶ Александр Казаков, Facebook, November 4, 2014

<https://www.facebook.com/photo.php?fbid=789930541045240&set=t.100000849034909&type=3&theater>

¹⁸⁷ kazakov.alexandr@gmail.com, e-mail to pochta_mg@mail.ru, “Запрос”, 2015-07-29, 16:18:27 +0300.

9月11日には、スルコフの指示の実行にあたり、『地上』（ヴァーチャル空間も含む）のプロジェクト実施段階に移行する」ことに伴い、「いくつかの重要なパラメータ」を調整しなければいけないとして、短時間の面談を要請した¹⁸⁸。さらに18日には「プリレーピンが同意した。1週間後に本の構想に着手する。仮のタイトルは『二人のザハル—過去、現在、未来についての対話』とスルコフに伝言するよう秘書に依頼した¹⁸⁹。秘書はスルコフの「よくやった。スパシーバ。連絡待つ」という短い返事をカザコフに返信している。なお、ここでいうもうひとりの「ザハル」とは DPR「首相」のザハルチェンコのことである。カザコフはザハルチェンコとスルコフの連絡役となっていた。10月12日には、スルコフ秘書に対し、「領土の『偵察』が終わり、手段を実行に移しつつある。木曜にモスクワに行き、結果や問題点を報告したい」としてスルコフとの面談を希望している（注：「領土」とはロシアが傀儡政府を通して支配する地域のことである）¹⁹⁰。

11月25日、カザコフはスルコフ秘書に『フォーリン・アフェアーズ』誌へのアレクサンダー・モティル（米国のソ連・ウクライナ専門家）の寄稿「ウクライナがドネツクを失ったとき」のリンクを送り、「私が始めたイメージ関連の仕事への間接的な評価である」)) 自分にチャンスがあれば、欧米の主要なメインストリーム・メディアにこれと同様の記事を二、三本注文するのだが」（文体ママ）というコメントとともにスルコフに報告させている¹⁹¹。

話題となっているモティルの記事¹⁹²は、親露プロパガンダサイトに掲載されたザハルチェンコのインタビューを引用した上で、ウクライナ東部の和平は傍観を決め込んだプーチンだけでなく、ドンバスの失地回復を宣言し、妥協を許さない強硬なザハルチェンコ DPR首班にもかかっている、ザハルチェンコは「単なる傀儡ではなく独自の考え、野心、計画を持つ」とする。モティルによれば、11月5日の会見でザハルチェンコは『ドンバスの運命』はドンバスで決められる。モスクワ、ワシントン、ベルリン、パリでもない」と主張し、「私は誰の操り人形にもなるつもりはない」とクレムリンに懸念を持たせる発言をしたという。また、ザハルチェンコがクレムリンに必ずしも従順ではない「ロシアの地方軍閥の首領」であり（モティルはチェチェンのラマザン・カディロフに例える）、（モスクワが同意したはずの）DPRによる停戦違反の増加はプーチンとザハルチェンコの間に内在する緊張を示すと述べている。こうした評価はおのずと「9月1日の停戦合意をザハルチェンコの軍隊に課したように、ロシアは一定のレベルまでは圧力をかけることができるだろうが、ザハルチェンコをモスクワの指示に盲目的に従わせることはほとんど不可能だろう」という分析につながる。メールの「)))」が多くを語るが、ザハルチェンコの広報を始めたばか

¹⁸⁸ kazakov.alexandr@gmail.com, e-mail to pochta_mg@mail.ru, “Записка”, 2015-09-11, 13:18:01 +0300.

¹⁸⁹ kazakov.alexandr@gmail.com, e-mail to pochta_mg@mail.ru, “Для ВЮ”, 2015-09-18, 12:25:49 +0300.

¹⁹⁰ kazakov.alexandr@gmail.com, e-mail to pochta_mg@mail.ru, “Прошу передать”, 2015-10-12, 11:50:28 +0300.

¹⁹¹ ale-kazakov@yandex.com, e-mail to pochta_mg@mail.ru, “Для В.Ю.”, 2015-11-25, 12:23:12 +0300.

¹⁹² リンク先の記事は以下のとおり。Alexander J. Motyl “When Ukraine Lost Donetsk: The World According to Alexander Zakharchenko,” *Foreign Affairs*, November 22, 2015.

<https://www.foreignaffairs.com/articles/ukraine/2015-11-22/when-ukraine-lost-donetsk>

りのカザコフは「してやったり」と思ったに違いない。モティルという「権威」と『フォーリン・アフェアーズ』という影響力のある雑誌を利用して、「モスクワはドンバス紛争の利害関係者ではあっても当事者ではない」というイメージを世界中の分析者・政策決定者の頭の片隅に拡散させることに成功したのだから。少なくとも 2015 年 2 月に同じ雑誌にモティルは「西側はウクライナを武装すべき」とのタイトルで意見を寄せているが (Motyl 2015a)、それと比べればモスクワに対する態度はかなり軟化しているともとれる。モスクワと DPR の関係がモティルの分析とは正反対であることはこの後のやりとりから分かる。

年をまたいだ 2016 年 1 月 18 日にカザコフは「新たな状況下において政治的な課題について協議する必要がある」として秘書を通じてスルコフとの面談を申し入れている¹⁹³。面談が実現した後の 2 月 1 日には「指示に基づき作業と必要なリソースについての提案を作成した。2 月 4 日または 5 日に 15 分でよいので面談して頂けないだろうか。自分は貴殿の計画を実行するためには資金面で制約を抱えているため、急ぎの件である！」とスルコフに伝えた¹⁹⁴。しかしその後なんらかの理由で実行にストップがかかったのだろう。24 日には、「自分の『無給休暇』の理由がいまだに分からない」、「養う家族があるので将来へ向けたなんらかの見通しがほしい」と切羽詰った様子¹⁹⁵。さらに、『領土』では多くのことが未完成のままで、対応が必要な進行中のプロジェクトもある。最後にお会いした際に新しいプロジェクトを作るように言われたが、だいぶ前から完成しており、提示する用意がある。私との協力関係に変更があるようであれば自ら連絡下さると貴殿がおっしゃっていたことを覚えている」としたうえで近日中の面談を懇願している。それからやや間が空いて、3 月 16 日、4 月にスルコフとプリレーピンの直接の面談を調整していることを報告し¹⁹⁶、本原案についてザハルチェンコにも事前に確認を求めたいという相談の他に、「3 月 11 日金曜日に A.Z. [注：ザハルチェンコ] から領土での今後の作業について新しい指示をもらってくるように言われている」ため、スルコフに面談の件をリマインドするよう秘書に依頼している¹⁹⁷。

なお、カザコフがしびれを切らしていた 2016 年初頭はロシアによるシリア軍事作戦期間 (2015 年 10 月～2016 年 3 月) にあたり、主要メディアを通じた対ウクライナの情報キャ

¹⁹³ kazakov.alexandr@gmail.com, e-mail to pochta_mg@mail.ru, “Для ВЮ,” 2016-01-18, 13:06:40 +0400.

¹⁹⁴ kazakov.alexandr@gmail.com, e-mail to pochta_mg@mail.ru, “Прошу передать,” 2016-02-01, 16:51:01 +0400.

¹⁹⁵ kazakov.alexandr@gmail.com, e-mail to pochta_mg@mail.ru, “Прошу передать руководителю,” 2016-02-24, 16:07:03 +0400.

¹⁹⁶ ウクライナ紛争以前にプリレーピンが語るところによれば、プリレーピンとスルコフはどちらもリャザン州スコピンで幼少期を過ごし、プリレーピンの妹がスルコフの従兄弟と結婚していた時期もあったが、親戚として対面することはなく、クレムリンでの文学者の会合が最初の出会いであった。プリレーピンはかつて反政府派 (エドアルド・リモノフ) へのスルコフの対応を批判する文章を書いたこともあり、政治的には必ずしも一致しないが、文学の面で一定の交流があったようである。“Захар Прилепин “Черная обезьяна — это не про негров”,” *Афиша Daily*, 17 мая 2011г.

<https://daily.afisha.ru/archive/vozduh/archive/zahar-prilepin/> Виктория Азарова, Елена Колосова. “Захар Прилепин: “Имею наглость называть себя счастливым человеком”” *Свой взгляд*, 2 июля. 2012г.

<http://zaharprilepin.ru/ru/pressa/intervyu/svoi-vzglyad.html> “Захар Прилепин: Я — не проект Суркова,” *Фонтанка*, 26 октября 2010г. <http://www.fontanka.ru/2010/10/25/100/>

¹⁹⁷ kazakov.alexandr@gmail.com, e-mail to pochta_mg@mail.ru, “Прилепин,” 2016-03-16, 19:20:16 +0400.

ンペーンの活動低下が観察されたことが指摘されている¹⁹⁸。スルコフもしばしの休憩をとっていたのかもしれない。

まとめ

政治技術と「ハイブリッド戦」

2013年初頭には「ユーラシア統合プロセスへのウクライナの取り込みに関する包括措置」が発動され、モスクワの関与を隠蔽したあらゆる能動的な非公式活動（アクティブ・メージャーズ）が水面下で展開されていた。プーチン大統領が2012年に打ち出したユーラシア統合の構想にウクライナは当初から距離を置いた。EU統合がひとつの大きなうねりとして、「親露」のはずの地域党やロシアとの経済関係が深いオリガルヒを含む「ポリトクム（политкум）」と呼ばれる、政治に影響力を持つ上流階級のコンセンサスとなっていた（パヴロフスキー）。ウクライナの親露政治勢力は無きに等しい状況であり、クレムリンの持ち駒はプーチンとも親しいメドヴェドチュクだけだった。

このような状況下で、ロシアはEU連合協定がウクライナの「主権侵害」、「植民地化」であるかのようなブラック PR を行った。これは政治技術にいう「ラベル貼り（наклейвание ярлыков）」と呼ばれるものである（Wilson 2005, pp.70-71）。さらに、グラジエフやフロロフは、ユーラシア統合に正教的価値観を付け加えた。2013年7月末のルーシ洗礼1025周年コンサートは、キリル・モスクワ総主教が「ユーロソドム」に惹きつけられつつあったウクライナ人の「目を覚まさせる」文化・精神的なミッションを負っていた。

また、それとほぼ同時に「貿易戦争」が顕在化する。ロシア国内で、税務署・消防検査が敵対政党・ビジネスライバルに政治的圧力をかけるのに広く使われているのと同様に、ウクライナに対する「懲罰」には規制当局が活用された。事実上の政治的報復措置を「経済問題」に偽装することで国際社会の非難や注意を回避できるメリットがある（Wilson 2005, p.84）。

かつてのロシアの選挙キャンペーンでは候補者のイメージアップのために無料コンサートへの招待やビールの無料提供、あるいは、中庭の世論形成に力を持つ年金生活を送る女性へのプレゼントなどが集票のための常套手段となっていたというが（Wilson 2005, p.64）、ユーロマイダンの前夜に行われたメドヴェドチュク支援の無料コンサート・ツアー「われらはひとつ」もその典型だろう。また、ライバル候補の集会を解散させるために動員される「懲罰隊」（группа зачистки）（Wilson 2005, p.66）はLGBTパレードやユーロマイダンの

¹⁹⁸ NATO StratCom COE, 2016. "Russian Propaganda Concerning Ukraine During the Syrian Campaign: an Innovative Approach to Assess Information Activities," <http://www.stratcomcoe.org/russian-propaganda-concerning-ukraine-during-syrian-campaign-innovative-approach-assess-information>

集会の鎮圧においても同じように動員された。

政治家経験のない「素人」の現地人アレクサンドル・ザハルチェンコは、スルコフのプロデュースにより、キエフの「ならず者」からドンバスの土地を守り、モスクワの言うことにさえ従わぬ猛者、ザハルチェンコ DPR「首相」にプロフィールを変えつつある。この新しい神話創生には、日常的なニュースだけでなく、プリレーピンというロシアの人気作家が才能を発揮している。Wilson (2005) の分類に従えば、政権側野党の「護民官 (tribune of the people)」、「ヴァーチャル・ポピュリスト (virtual populist)」の役割といったところだろう (p.187)。

選挙の勝利のためにはメディアが重要であることは言うまでもない。ロシアと欧米との決定的な違いは、前者がパヴロフスキーのいう「大統領権力の垂直型行政に対応した垂直型メディア」を目指す点にあらう (Wilson 2005, p.65)。このロシア型のメディア構造においてはニュースのアジェンダを作るために毎週の「専門家会合」や「テーマ集」が欠かせない。スルコフは、占領地 DPR/LPR のメディアに対しては報道制限を行い、ウクライナ人 (ロシア国籍取得者) ジャーナリストにはクレムリンに都合のよいウクライナ情勢を発信させている。

また、資金と人材を持つ正教ビジネスマン・マロフェエフの登場はクレムリンに多様な選択肢を提供したことだろう。グラジェフやスルコフはユーロマイダン以前からマロフェエフとの間でコネクションを確立していた。パヴロフスキーがいうとおり「ビジネスマンと政治家、ロビイストと政治家との異なる役割は、ロシアには適用されない」のであり、プロジェクトの「スポンサー」は政府の役人であることもあれば、有力なオリガルヒであったり、政治技術屋本人であることもある (Wilson 2005, p.53)。内政同様に對外政策においてもこの境界は曖昧なままのようである。

また、この曖昧性はプレイヤーの役割分担だけでなく、ランド研究所のいう「政治戦」、「ハイブリッド戦」、「通常戦」のプロセスにおいても曖昧となっている。グラジェフやフロロフは、いったいいつの時点で「政治戦」から「ハイブリッド戦」に移行したのだろうか。あるいはスルコフが指揮するのは「ハイブリッド戦」なのか、「通常戦」なのか。これらの質問に一義的に答えるのは難しい。

しかし、ロシアの政治技術が効果を発揮したのは、ウクライナにも規模は小さいが同じ文化・市場があったからだろう (Wilson 2005, pp.57-58)。ロシアの政治技術はウクライナ市場での失敗を経つつも成長してきた。政治技術の市場は「供給が需要を生む」 (pp.61-62)。スルコフやフロロフに対する「ウクライナ・プロジェクト」の提案者は無数にいる。

いずれにせよ、ロシアのアクティブ・メジャーズ「包括措置」はむしろ逆効果だった。「貿易戦争」は逆効果を生み、ウクライナの EU 統合支持は独立以降初めて 50%を超えた。また、スラヴ民族の一体性を訴えた「われらはひとつ」コンサートは不評に終わり、メドヴェドチュクやその運動「ウクライナの選択」の支持率も 1%未満に留まった。2013 年 11 月のヴィリニウス・サミットでの EU 連合協定署名の棚上げは、対外的にはヤヌコヴィッチ

がプーチンのオファーの前に方向転換をしたようにとらえられたが、実質的にはロシアの勝利と呼べるものではなく、むしろ EU からの支援を引き出したいヤヌコヴィッチのバーゲニングという側面が強かった。ヤヌコヴィッチに対するクレムリンの不信は頂点に達することになる。

ロシアの受動性・即興性

Treisman (2016) は動機 (why) と実行方法 (how) に答えることが動機 (why) への解明にもつながりうるとし、クリミア併合を説明する 4 つの定説 ("Putin the defender", "Putin the imperialist", "Putin the populist", "Putin the improviser") を検証している。

2014 年 3 月 17 日のプーチンのクリミア併合演説ではクリミアに迫る NATO の脅威が強調された。他方、中立ステータスを維持していたウクライナ側が NATO 加盟に関して初めて言及するのはクリミア半島にロシア軍が現れた後である¹⁹⁹。ロシアがとりわけこの時期に特に NATO 拡大を懸念していたことを示唆する証拠はない。Treisman は、「クリミア作戦の指揮官に近い情報源」へのインタビューを踏まえ、NATO 拡大そのものよりも、ポスト・ヤヌコヴィッチ政権がセヴァストポリ基地の賃借を取り消し、黒海艦隊の撤収を要求するのではないかという恐れの方が強かったのではないかと推測する。

ロシアの政治技術では、現在の社会問題の責任を過去の政権、IMF、欧米、「過激派」などに押し付けることは珍しくはなく、「時間と行為主体の混同」は「すり替え (перевод стрелки)」技術と呼ばれる (Wilson 2005, p.90)。一方、クリミア併合演説では不思議なことにウクライナの EU 連合協定、あるいはロシアが進める関税同盟やユーラシア統合については一切触れられていないことに注意したい。本当の動機はおそらく語られていないことにある。

また、"Putin the improviser" (クリミア併合が即興だった) は、プーチン自身が 2014 年 4 月 17 日の記者会見で、ロシアはクリミアでの併合や軍事行動を事前に計画したことはない、事態の展開に対応して行動を検討した、と語っていることを理由のひとつとする²⁰⁰。Treisman (2016) は 2015 年 10 月にソチでプーチンに対し、作戦が事前に準備されていたかを直接質問する機会を得た。プーチンは「まったく違う。あれは即興だった。キエフで起こっていることを見て、私が決定した」と答えたという。また、軍事作戦はだいぶ以前から準備されていたと思われるが、政治部分の計画はグラチが証言するとおり、国防省と FSB

¹⁹⁹ しかし、ロシア政府関係者のクリミア併合前後のナラティブを時系列で分析した Nimmo (2016) は、ウクライナの NATO 加盟に対する脅威は、クレムリンの併合決定の主要因ではないとする。ウクライナ危機の最初の段階からロシアの非難は EU とマイダンの抗議活動に集中していた。ウクライナ危機を通して、NATO 拡大の可能性がロシア政府関係者によって公に触れられたのはプーチンの 3 月 18 日演説が最初だった。ロシアが NATO を紛争の当事者として真剣に描くのは、クリミア併合の決定 (ドキュメンタリー映画のプーチン証言によれば 2 月 22 日) がなされてから 4 週間後のこととなるのである。

²⁰⁰ "Прямая линия с Владимиром Путиным," *kremlin.ru*, 17 апреля 2014 г.
<http://kremlin.ru/events/president/news/20796>

で調整がない上に、クリミアの政治状況に対する理解もなかったことは即興説に味方するとする。

しかし、2014年2月のキエフの「クーデター」が「プーチン本人を激怒させた」²⁰¹、すなわち想定外だった、というのは本当だろうか。上述したとおり、政治的、経済的な影響力を持たないモスクワに残されたのは、ウクライナを東西に分割し、東部にモスクワの主張を代弁させ、キエフのEU接近を阻止することだった。「弟」が言うことを聞かぬなら、その右半身をもぎ取ってしまえ、という「兄の偏愛」である。ウクライナに対する「分割統治(Divide and rule)」は2004年のヤヌコヴィッチ支援でも用いられた(Wilson 2005, p.211)。「バンデラ派」、「自由党」、「右派セクター」の脅威、国際社会には「ファシストの脅威」を叫べばよい。さらに、「分割統治」は聞こえのよい「連邦化」、あるいは「国境地域間協力」という飾りのもとで進められた。

ソチ・オリンピックの最中にキエフで起こった「クーデター」は、ウクライナの「分割統治」を準備したクレムリンに願ってもないチャンスだったに違いない。プーチンは「クーデター」演出のため、ヤヌコヴィッチに対し命に危機が迫ると脅し、「人道的配慮」から、その国外脱出を積極的に手助けした²⁰²。ヤヌコヴィッチはプーチンの言葉をまんまと信じた²⁰³。

また、クリミア併合前後にスルコフに近い政治技術屋(パヴロフスキー、チェスナコフ、マルコフら)が欧米メディアに意図的に拡散させたナラティブは、ヤヌコヴィッチの逃亡、キエフの「クーデター」がモスクワの行動のきっかけとなったというものである。政治技術屋の仕事は、現実を客観的に評価して、欧米に報告することではない。むしろ、現実に関与し、ヴァーチャルな「現実」を作り出すことに快感を見出すのである。

ドンバス紛争の内(外)生性

2014年のドンバス紛争については専門家の間でも解釈が分かれている。ひとつは、「キエフの暴力的なレジームチェンジへの直接的反応として生じた武装分離主義運動」(Kudelia 2014)とする議論である。一方、「内戦」的なとらえ方をする味方への反論として、国内的要素は限定的であり、「モスクワによって開始、支持、支援された」紛争(Umland 2014)という見方がある。また、Wilson (2016)は、「過去の3分の2以上の内戦は第三者の外国の『介入』を伴うが、それでも内戦と呼ばれる」という議論(主に歴史家による)に対し、「内戦に参加するのと、内戦を開始しエスカレートさせるのは、雲泥の差がある」と指摘している(pp.633-634)。

²⁰¹ Steven Lee Myers, "Russia's Move Into Ukraine Said to Be Born in Shadows," *The New York Times*, March 7, 2014.

²⁰² "Путин спас Януковича от расправы," *Вести.Ru*, 4 марта 2014 <https://www.vesti.ru/doc.html?id=1345533>

²⁰³ "Віктор Янукович: якщо я не поїхав, війна йшла би по всій", *ВВС УКРАЇНА*, 23 червня 2015. http://www.bbc.com/ukrainian/politics/2015/06/150622_yanukovich_interview_rl?ocid=socialflow_facebook

この解釈についてスルコフ・リークスは多くの示唆を含む。第一に、スルコフは、「国家」運営のもっとも重要な人事・予算の両面で「人民共和国」をコントロールしている。これを傀儡と呼ばなければ何を傀儡と呼ぶのだろうか。2014年5月、プーチンの延期要請にも関わらず「人民共和国」は住民投票を決行した。しかし、投票から2日後にはマロフェエフからスルコフに「閣僚」人事候補が相談されている。「我々によって確認済み」のように人物の信頼性評価を実施するにはそれなりの時間がかかる。マロフェエフが「独断で」行動していたというのも考えにくい。フロロフ・リークスが示すようにマロフェエフはユーロマイダン以前にグラジエフ＝スルコフのラインに組み込まれている。

これらのことを総合すると、「住民投票」は分離主義者の勇み足というよりは、それを利用した国家指導者のスピン（印象操作）とみてよい。一方、プーチンの「延期要請」を文字通りに受け止め、ドンバスの分離主義者に政治的な主体性を見る議論は、ウクライナの「脱中央集権化」が事態解決の鍵だ、という考えに陥りやすい（e.g. Sotiriou 2016）。

また、「モスクワにフォーカスしすぎると現地のプロセスが見えなくなるリスクがある」と主張する Matveeva (2016) は、「反乱者やそのリーダーは現実となったのであり、弱体化することはない」(p.46)、『『人民共和国』を政治の人格と認めないキエフの政策は非生産的であり、いずれ覆される」(p.46) のように見事にモスクワを代弁する見解となっているが、情報ソースがロシア国営メディアの他に、Colonel Cassad、rusvesna.su、novopressa.ru などのアンチ・ウクライナのプロパガンダメディアである点にも注目したい（フロロフ・リークスから明らかだが、いくつかはクレムリンが直接支援している）。

選択バイアスのひとつであるが、従属変数と相関する観察選択のルールを採用すると因果的効果の平均値を低く見積もりやすい。例えば、公開情報を基にした大統領の重要政策決定への関与の研究は、一般に秘密度が高く非公表の会議のほうが大統領の関与が大きい。ため方法論上の問題を抱える（King, Keohane&Verba, pp.132-135）。ロシアの対ウクライナ政策は、政府要人発言、クレムリン筋情報、専門家コメントなど、いずれも当事者の側から積極的に公開される表層的な情報（これらのほとんどは模範的な政治技術である）をもとに解釈が試みられることが少なくない。クレムリノロジーは政治技術屋の前に無力である（Wilson 2005, p.273）。スルコフ・リークスは秘書が間接的に管理するメール、フロロフ・リークスはフロロフ個人が直接管理するメールであるが、このような当事者が公開を歓迎しない情報は²⁰⁴、データの生成・公開過程に十分に注意しその信憑性を検証できる限り、当事者発情報を受容する観察者の選択バイアスを補正する有効な手段となりうる可能性を秘めている。

参考文献

布井図苗「ウクライナの『見えない』戦争：スルコフ・リークスに見るクレムリンの影響

²⁰⁴ スルコフ・リークスが、2016年10月末の公開以降、当事者のチェスナコフやパヴロフスキーにどのように歓迎されたのかは布井（2017）を参照。

作戦」、2017 年。

<https://onedrive.live.com/?authkey=%21AOqXzJ-2tqGtnel&cid=0E778E433F97E3CA&id=E778E433F97E3CA%21107&parId=root&o=OneUp>

フィオナ・ヒル、クリフォード・G・ガディ著、濱野大道・千葉敏生・訳、畔蒜泰助・監修
『プーチンの世界：「皇帝」になった工作員』、新潮社、2016 年。

松里公孝「クリミアの内政と政変（2009-14 年）」、『現代思想』、2014 年。

Dragneva-Lewers, R. & Wolczuk, K. (2015) *Ukraine Between the EU and Russia: The Integration Challenge* (London: Palgrave Macmillan).

Bruusgaard, K. V. (2014) 'Crimea and Russia's strategic overhaul', *Parameters*, 44,3.

Dubovitsky, N. (2014) 'Bez Neba', *Russkiy Pioneer*, March 12, available at:
<http://www.ruspioneer.ru/honest/m/single/4131>

Freedman, L. (2014a) 'Ukraine and the art of crisis management', *Survival*, 56, 3..

Freedman, L. (2014b) 'Ukraine and the art of limited war', *Survival*, 56.6.

Galeotti, M. (2015) "Hybrid war" and "little green men": How it works, and how it doesn't',
Ukraine and Russia: People, politics, propaganda and perspectives, 156.

Katchanovski, I. (2016) 'The Separatist War in Donbas: A Violent Break-up of Ukraine?', *European Politics and Society*, 17, 4.

King, G, Keohane, R & Verba, S. (1994) *Designing social inquiry: Scientific inference in qualitative research* (Princeton university press).

Kofman, M., Migacheva, K., Nichiporuk, B., Radin, A., & Oberholtzer, J. (2017) *Lessons from Russia's Operations in Crimea and Eastern Ukraine* (Rand Corporation).

Kudelia, S. (2014a) 'The house that Yanukovych built', *Journal of Democracy*, 25, 3.

Kudelia, S. (2014b) 'Domestic sources of the Donbas insurgency', *PONARS Eurasia Policy Memo*,
available at: <http://www.ponarseurasia.org/memo/domestic-sources-donbas-insurgency>

Matveeva, A. (2016) 'No Moscow stooges: identity polarization and guerrilla movements in Donbass', *Southeast European and Black Sea Studies*, 16,1.

Motyl, A. J. (2015a) 'The West Should Arm Ukraine', *Foreign Affairs*, 10.

NATO Strategic Communications Centre of Excellence (StratCom COE) (2015) 'Analysis of Russia's information campaign against Ukraine: Examining non-military aspects of the crisis in Ukraine from a strategic communications perspectives', available at:
<http://www.stratcomcoe.org/analysis-russias-information-campaign-against-ukraine-1>

NATO Strategic Communications Centre of Excellence (StratCom COE) (2016) 'The Dynamics of Russia's Information Activities against Ukraine during the Syria Campaign', available at:
<http://www.stratcomcoe.org/dynamics-russias-information-activities-against-ukraine-during-syria-campaign>

NATO Strategic Communications Centre of Excellence (StratCom COE) (2016b) 'Russian

- Propaganda Concerning Ukraine During the Syrian Campaign: an Innovative Approach to Assess Information Activities', available at: <http://www.stratcomcoe.org/russian-propaganda-concerning-ukraine-during-syrian-campaign-innovative-approach-assess-information>
- Nimmo, B. (2016) 'Backdating the blame. How Russia made NATO a party to the Ukraine conflict', available at: <http://www.stratcomcoe.org/backdating-blame-how-russia-made-nato-party-ukraine-conflict-author-ben-nimmo>
- Pomerantsev, P. (2014) 'How Putin Is Reinventing Warfare', *Foreign Policy*, May 5, available at: <https://foreignpolicy.com/2014/05/05/how-putin-is-reinventing-warfare/>
- Rauta, V. (2016) 'Proxy agents, auxiliary forces, and sovereign defection: assessing the outcomes of using non-state actors in civil conflicts', *Southeast European and Black Sea Studies*, 16, 1.
- Samokhvalov, V. (2015) 'Ukraine between Russia and the European Union: Triangle Revisited', *Europe-Asia Studies* 67, 9.
- Sotiriou, S. A. (2016) 'The irreversibility of history: the case of the Ukrainian crisis (2013–2015)', *Southeast European and Black Sea Studies*, 16, 1.
- Thomas, T. (2004) 'Russia's reflexive control theory and the military'. *Journal of Slavic Military Studies*, 17,2.
- Thornton, R. (2015) 'The Changing Nature of Modern Warfare: Responding to Russian Information Warfare', *The RUSI Journal*, 160, 4.
- Treisman, D. (2016) 'Why Putin Took Crimea', *Foreign Affairs*, 95, 3.
- Tsygankov, A. (2015) 'Vladimir Putin's last stand: the sources of Russia's Ukraine policy', *Post-Soviet Affairs* 31,4.
- Umland, A. (2014) 'In Defense of Conspirology: A Rejoinder to Serhiy Kudelia's Anti-Political Analysis of the Hybrid War in Eastern Ukraine', *PONARS Eurasia*, September 30, available at: <http://www.ponarseurasia.org/article/defense-conspirology-rejoinder-serhiy-kudelias-anti-political-analysis-hybrid-war-eastern>
- Wilson, A. (2005) *Virtual politics: faking democracy in the post-Soviet world*. Yale University Press.
- Wilson, A. (2014) *Ukraine crisis: What it means for the west*. Yale University Press.
- Wilson, A. (2016) 'The Donbas in 2014: Explaining Civil Conflict Perhaps, but not Civil War', *Europe-Asia Studies*, 68, 4.
- Mahda, Ye. (2017) *'Hibridna ahresiiia Rosiy; uroky dlia Evropy'*, Kyiv: Kalamar.

Тема: Укр-тезисы-ГП
Дата: Wed, 30 Oct 2013 17:48:28 +0300
От: Gleb Pavlovsky <gleb@fep.ru>
Кому: prrm_Surkova@gov.ru
(attachement)

ОТНОСИТЕЛЬНО УКРАИНСКИХ ДЕЛ

Из российских выступлений и публикаций можно понять, что в Киеве идет выбор межд «пророссийской» и «прозападной ориентацией»; это не так. В Киеве выбирают оптимальный **способ гарантированно продлить президентство Виктора Януковича (на выборах 2015 года).**

Безальтернативность переизбрания для Януковича равна ненависти к нему и «семье» со стороны почти всех электоральных групп. В первом туре он опережает любого из конкурентов минимум на 7 процентов, но во втором - **проигрывает почти всем**, кроме Тягнибока и Симоненко.

Януковичу необходимо переизбираться, это очень серьезная вещь. Настолько серьезная, что на днях потенциальный чемпион 2 тура Кличко пообещал Януковичу освобождение от уголовного преследования.

А что могла предложить Россия в этой связи? Выиграть **только** на теме «дружбы с Россией» ему нельзя (хотя на прошлых выборах эта тема добавила Януковичу те 5 процентов, которые нужны были для победы над Тимошенко). Но на выборах 2015 года этого мало – выигрыш в 1 туре исключен (максимум 25-30 процентов), **во 2-м туре Янукович проигрывает половине кандидатов.**

«Евроинтеграция» добавляет Януковичу избирателей Запада и особенно Центра Украины. Избирателей Востока у Януковича **отнять** – пока что некому.

Выстраивая полярную картину, мы невольно работаем на кампанию Януковича, как на неизбежный «последний выбор» противников крайнего национализма. Картина «нажима Москвы» обращает президента в то, чем он не являлся – в «общеевропейского национального лидера». Не слишком ли дорогой бесплатный подарок к будущим выборам?

*

Янукович не пытался создавать предварительную политическую или социальную базу для своего «европейского разворота», и сегодня ее практически не имеет.

Активная опора Януковича сегодня – почти исключительно т.н. **политикум** (украинский термин, обозначающий политические, общественные и образованные круги, депутатов и статусных журналистов – в общей сложности, **не более 7-10 тыс. человек**).

Ввиду его компактности и (по преимуществу) национал-либеральной оппозиционности, политикум довольно мобилен и управляем. **В рамках «политикума» и действует т.н. «проевропейский консенсус».**

В обычных условиях политикум не оказывает решающего влияния на поведение избирателей, и его предпочтения они часто не разделяют. Он активизируется только во время кризисов и чрезвычайных обстоятельств.

«Режим консенсуса» установившийся на Украине создает основу для **союза любой оппозиционной силы от Кличко, Яценюка и даже Тимошенко с действующей властью.**

Даже **противостояние финансово-политических группировок временно отложено**– хотя оно определяется объективно существующим конфликтом бизнес-интересов, который не исчезал. Непримиримые противники в бизнесе, **Ахметов и Коломойский**, выступают с **тождественных** позиций в пользу ассоциации с ЕС – пусть даже каждый по своим мотивам.

Консенсус элит подкрепляется **резким изменением вектора предпочтений украинского обывателя.** Социологические исследования последних двух месяцев показывают: **впервые за все двадцать лет** новой украинской государственности **число сторонников европейского дрейфа Украины стало абсолютным большинством – более 51% населения** считают действия Януковича в отношении подписания ассоциации с ЕС движением в правильном направлении, и только 31% считают, что правильнее было бы подписать соглашение с Таможенным союзом.

*

Янукович пошел на **блеф**, пожертвовав –как ему известно – стратегическими интересами России на Украине. Он не может быть – ни при каких

обстоятельствах – надежным партнером российской политики. Надо **помочь ему проиграть** будущие выборы.

Сегодня Янукович неуязвим, особенно для внешних нападок, окруженный временно защищающей его харизмой *«лучшего будущего не для нас, так для наших детей»* (частый тезис даже у сторонников сближения с РФ). Он - *единственный кандидат для русскоязычного электората Востока*. Но он чужой - и для городских двуязычных избирателей, и для бюджетников.

Блеф Януковича успешен – лишь потому, что от него никто такого не ожидал. После подписания Соглашения большинство факторов консенсуса - утратят силу. Возникнет проблема ратификации 28 странами ЕС, **которая наложится на год его предвыборной кампании**.

Это идеальное время для изменений в персональной основе российской политики на Украине.

ИЗ ПОСЛЕДНИХ НОВОСТЕЙ

Радек Сикорский, мининдел Польши **сегодня** жестко предупредил Януковича, что если до саммита в Вильнюсе Украина «не успеет *выполнить все условия ЕС*» (амнистия для Тимошенко прежде всего) – **подписание Ассоциации будет отложено** на следующий год.- Евросоюз как всегда строит «политический гамбургер» - где руководство страны-соискателя зажато между ним и оппозицией, получившей право жаловаться в Брюссель. Брюссель превращается в высшую инстанцию контроля, оценки и разрешения конфликтов.

Янукович уже крайне недоволен давлением ЕС. Зато он теперь *не* зажат между «прорусским» электоратом Востока-Юга и Москвой. Москва, играя против Януковича, невольно играет на Брюссель.

Богдан Данилишин – экономист, бывший министр экономики в кабинете Тимошенко – возвращается на Украину, в связи с аннулированием *(на прошлой неделе)* всех обвинений в его адрес. Данилишина называют **вероятным премьером** при одном из оппозиционных «политических президентов» (скорее всего, Кличко). Сам Данилишин заявил что будет создавать *«партию людей с европейским образованием»* из городского среднего класса.

.....
From: Георгий Брюсов [mailto:brusovg@mail.ru]

Sent: Wednesday, July 09, 2014 XX:XX:XX

To: prm_Surkova <prm_surkova@gov.ru>

Subject: Fwd: Ориентировка
.....

(attachement)

Бройде Павел Павлович,

1978 г.р. уроженец г. Запорожье, УССР

Принимал активное участие в общественно-политической и церковной жизни. С 2000 года по 2003 занимал посты директора Запорожского центра помощи жертвам деструктивных сект «Диалог», президента Всеукраинского центра помощи жертвам деструктивных сект «Диалог», исполнительного директора Восточноевропейского центра защиты семьи и личности «Диалог». Являлся референтом Архиепископа Запорожского и Мелитопольского Василия (Златолинского).

С 2003 по 2008 годы занимался общественной деятельностью в сфере молодежи. Участвовал в создании и деятельности на территории Запорожской области Центра патриотического воспитания молодежи «Пересвет» и общественной организации «Славянская Гвардия», руководил информационной кампанией направленной против Ющенко и оранжевой революции на территории Запорожской области. Участвовал в пропаганде ценностей славянского единства и антиглобализма, православных традиционных ценностей. Вместе с тем, с целью финансирования организации участвовал в ряде пиар-кампаний, в общей сложности проведя 9 избирательных кампаний, а также ряде корпоративных конфликтов в вопросах информационного и юридического сопровождения. Также на коммерческой основе оказывал услуги по подготовке аналитических обзоров и справок по общеполитической ситуации в регионе и конфликтам среди бизнес-групп и политических сил. Принимал участие в 2005-2006 году в подготовке и проведении мероприятий на территории РФ по обучению молодежных организаций («Наши», «Молодая Россия» и другие) противодействуя попыткам цветной революции в России в сфере общественной и уличной деятельности.

С 2008 года начал готовить финансовую базу для переноса деятельности в Киев. С этой целью была начата хозяйственная деятельность: было создано пиар-агентство, юридическая компания, новостные сайты, газеты.

После подготовки финансовой базы в 2010 году переехал в Киев. Принял приглашение о работе в Украинской Православной Церкви (Московского Патриархата) в Синодальном отделе по делам молодежи. В рамках отдела был создан Всеукраинский апологетический центр во имя Св. Иоанна Златоуста (далее – ВАЦ) и за год было создано порядка 20 епархиальных

центров. С 2011 года координатор ВАЦа. В связи с недостатком средств для финансирования активной деятельности ВАЦ продолжил заниматься услугами в сфере пиара и аналитики. Деятельность пиар- агентства была перенесена из Запорожья в Киев, где в его состав вошла группа специалистов из разных регионов.

В 2012 году по предложению руководителя т.н. «теневой вертикали власти» в Запорожской области, возглавил теневой технологический центр Партии регионов и ЕСМА (единую службу мониторинга и аналитики).

В обязанности входило:

- 1) Организация мониторинга открытых источников информации.
- 2) Накопление и обработка данных по ситуации в области, в сферах: политической, экономической, криминальной, расстановки сил и векторах действий бизнес—групп.
- 3) Подготовка аналитики для руководства «теневой вертикали» в Запорожье и Киеве, губернатора, Администрации Президента, МВД, киевского руководства ПР, СБУ, Генеральной и областной прокуратуры и налоговой службы и других инстанций.
- 4) Взаимодействие с партийными структурами, правоохранительными органами, СБУ, налоговой и другими контролирующими органами для обмена информацией и пресечения деятельности оппозиции, протестных общественных групп, нелояльных бизнес-групп.
- 5) Построение и ведение сети информаторов и лиц, оказывающих влияние на оппозиционные силы, протестные группы, структуры являющиеся получателями зарубежных грантов.
- 6) Курирование Юридической службы и «Общественного антирейдерского комитета» в рамках правового анализа конфликтных ситуаций, судебного и иного правового противодействия оппонентам действующей власти, юридически-консультативного сопровождения работы правоохранительных и иных контролирующих органов.
- 7) Курирование креативного отдела, разработки концептов и проектов информационных кампаний и предвыборных кампаний в интересах действующей власти.
- 8) Курирование службы постинга (интернет-сайты и социальные сети).
- 9) Курирование райтерской службы.
- 10) Курирование СМИ и собственных медиа-проектов (подготовка фильмов-расследований, регулярных телепередач, контроль и администрирование 4-х газет, 5-ти сайтов и т.д.)
- 11) Формирование и курирование более 10-ти общественных организаций (ветеранских, социальных, молодежных и иных), входящих в состав Союза «Гражданская оборона», созданного с целью противодействия оппозиции.
- 12) Организация работы и курирование службы коммуникаторов (посев слухов).

- 13) Курирование социологических проектов (социологические исследования, формирующие соцопросы).
- 14) Организация уличных акций.
- 15) Организация военно-патриотической работы с молодежью.
- 16) Медиа-баинг.
- 17) Организация сбора информации по деятельности оппозиции непубличными методами.
- 18) Организация т.н. акций «прямого действия».
- 19) Курирование ситуация в отдельных городах и районах области.
- 20) Взаимодействие с народными депутатами и депутатами местных советов.
- 21) Контрольные функции при организации и ведении работы штабов ПР.
- 22) Прочие

Данная деятельность велась мною с апреля 2012 года по сентябрь 2013 включительно.

В течении этого времени моя деятельность была сопряженно с конфликтами с оппозиционными на то время силами и бизнес-группами, чьи действия были направлены на дестабилизацию ситуации в области.

Также начиная с июня 2013 года весьма неоднозначно развивались отношения с руководством «теневой вертикали» в Запорожье, которое вступило в конфликты с другими ветвями той же группы (группы Иванющенко), постепенно наращивало конфликты как внутри системы, так и во вне ее. С изменением внешнеполитического вектора в Киеве с пророссийского на евроатлантический, перед возглавляемой мною системой начали ставить задачи по пресечению общественной активности пророссийских групп в Запорожской области, что не входило в мои обязанности и противоречило моим убеждениям. В июне, по этой и иным причинам, мною было согласованно увольнение, но по просьбе руководства отложено до сентября. После пережитого в августе покушения на жизнь, руководство в силу пережитого эмоционального потрясения утратило адекватность, прибегая к недопустимым методам как деятельности в целом, так и поведения с подчиненными, вплоть до рукоприкладства и угроз жизни и здоровью. Вследствие тех же причин были сначала испорчены, а потом перешли в конфликтную фазу отношения запорожского руководства с киевскими и правоохрнительными органами. Передо мною начали ставить задачи по дискредитации уже представителей власти и органов МВД. Мои попытки уволиться были встречены очередными угрозами мне и моей семье, обещанное увольнение в сентябре было отменено моим руководством под угрозой моего убийства. Оказавшись в начале октября в положении кристаллизации рисков убийства или заказного ареста со стороны если не своего начальства, то его оппонентов, я вынужден был покинуть Украину.

В настоящее время нахожусь под рисков воздействия враждебных мне групп как бывшего руководства, так и прежних оппонентов из числа бизнес-групп и политических сил (впервые

очередь – ВО «Свобода»). В силу как сохранения прежних рисков, так и сегодняшних политических реалий на Украине– возвращение на Украину не представляется возможным. Находясь за пределами Украины продолжаю выполнять функции координатора Всеукраинского апологетического центра во имя св.Иоанна Златоуста при Отделе по делам молодежи Священного Синода Украинской Православной Церкви (Московского Патриархата).

Также с начала 2014 года являюсь членом дирекции и главой аналитического отдела научно-исследовательского центра «Лаборатория политического анализа и прогнозирования» (г. Киев), выполняющего на коммерческой основе функции по мониторингу и подготовки аналитических продуктов в политической сфере и сфере анализа взаимоотношений ФПГ. На основе дистанционной работы, выполняю еженедельный анализ ситуации, на основе открытых источников и инсайдерской информации по ситуации в Киеве и некоторых регионах Юго-Востока. Дополнительным направлением деятельности центра является подготовка PR-проектов.